

千代田区行政評価委員会 環境まちづくり・政策経営分科会（第3回）議事録

日 時：平成29年7月26日（水）午前9時00分～11時29分

場 所：千代田区役所6階 特別会議室

出席者：（学識委員）朝日委員、鈴木委員、松井委員

（委員：説明者）保科委員

（委員：評価者）大矢委員、須田委員

（委員：事務局）亀割委員、湯浅委員

配付資料：資料1 第3回環境まちづくり・政策経営分科会 委員名簿

資料2 二次評価シート（案）

1 開会

発言者	発言内容
湯浅委員	<p>おはようございます。それでは、定刻のお時間となりましたので、ただいまから第3回環境まちづくり・政策経営分科会を開会させていただきます。</p> <p>まずは、お手元の資料をご確認ください。こちらの資料を確認させていただきます。一番上が次第でございます。2番目が資料1、環境まちづくり・政策経営分科会委員名簿でございます。3枚目が資料2、二次評価表、これは後ほどご説明をさせていただきます。それと、事前質問表、こちらで以上となりますがご不足はございませんでしょうか。</p> <p>（「はい」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、改めての確認でございますが、本分科会は原則公開となっております。本日、皆様のご意見などは議事録としてホームページで公開させていただきます。参考資料の取り扱いが必要な場合は適宜会の中でお諮りいたしますのでご了承のほどよろしく願いいたします。</p> <p>本日は、事前質問表、こちらにつきましては、参考配付としてよろしいでしょうか。</p> <p>（「はい」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、第3回の分科会の開会に当たりまして、分科会長にご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
朝日分科会長	<p>はい。本日、第3回となりまして、一応環境まちづくりとしては、最後の会になります。件数は4件ですね。そうしたらちょっと、時間的な制約はあるかと存じますが、本日もご議論のほう、どうぞよろしく願いいたします。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>司会進行につきましては、引き続き、政策担当課長の湯浅が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>

	<p>分科会の進め方につきまして特段ご質問がなければ早速評価のほうに入らせていただきますけれども、よろしいでしょうか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p>
--	---

2 施策評価

(1) 施策の目標3

湯浅委員	<p>それでは、まず、施策の目標3につきまして、事前に評価に係るご質問をいただいておりますので、所管部長の環境まちづくり部長からご説明をよろしくお願いいたします。</p>
保科委員	<p>はい。事前に、3の「だれもが移動しやすい環境の整備を進めます」という中の主な取組みで3点ご質問いただきました。</p> <p>1点目が、サイクルポートの設置場所について、駅での乗り換えなど他の交通体系との連携状況はどのようになっているのでしょうかというご質問です。</p> <p>これにつきましては、このコミュニティサイクル、ちよくると言っていますけれども、ちょうど3年前、平成26年10月からスタートしたわけですが、当初は、いわゆる道路上にポートは設置できませんでした。ロンドンもパリもニューヨークも、駅をおりると真ん前にコミュニティサイクルがずらっと並んでいるというのが一般的ですけど、日本はそういう形になっていまして、道路は、国道、都道、区道があり、千代田区は区道を管理していますが、それを道路管理者と言います。一方で、警察は交通管理者とって全て警察協議が必要です。基本的には道路には、例えば交番だとかNTTの電話ボックスだとかを除いて、建造物、構築物は一切置けないというのが原則です。それで、道路上のポート設置が非常に厳しく当初、役所の前にもありますが、いわゆる公有地、あとは私有地でのポート設置でスタートしました。その後つい最近になって道路上にもポートを置ける形になったんですが、現実的には交通管理者、警察との協議が非常に厳しい状況で、なかなか適地には置くことができないという状況です。時間が経てば置けるようになるかもしれませんが、現在、区内にはJR、地下鉄の出入り口も含めて五十数駅ありますので、連携をとりたいと思っておりますが、なかなかうまくいっていないという状況です。</p> <p>それから、サイクルポートの有人窓口と無人窓口との相違は何か、将来的には無人化されるのでしょうかということですか。</p> <p>これは、無人窓口というのは、ちょうど役所の前の千代田会館という、観光協会のところにもありますが、いわゆる自動登録機のことです。これが、今12あります。そのほかに有人窓口が7カ所あるわけですが、これは、主に、登録とか後は1日パスを発行している場所です。将来的に無人化されるという予定はありません。当然、有人窓口と無人窓</p>

口を併用していくという形になります。

ちなみに、もうご案内かと思いますが、今のちよくるのシステムは、NTTドコモと事業協定を結んで実施していますが、携帯電話と同じ仕組みで、ネット上でも登録できます。この携帯電話を鍵がわりにして使うこともできるシステムになっていますので、オール無人でもできないわけではないんですけど、登録の仕方がわからないという方もいらっしゃると思いますので、こういう機械式の窓口と有人窓口を併置しているという状況になっています。

それから3点目が、電線類地中化の実施の直接的費用も地域との協議など調整費用も大きいようですが、事業箇所の優先順位の決定基準は何でしょうかということですが、明文の優先順位を決めたものは、現在ありません。今、我々のほうで道路整備方針というものを検討していきまして、その中では、地中化の優先路線の決定方法等も決めていきたいと思っています。基本的に幅員が11メートル以上の区道でそのうち当然道路の打ち替え等々の更新時期が来ているもの。あとは、電線類の地中化というのは、実は10年ぐらいかかる事業でして、当然その間、地域の皆様方に多大なご迷惑をおかけするということもありますので、地域の合意が形成できるという形でやらせていただいています。

この道路幅員11メートルというのは、昨今いろいろ技術革新もありますけれども、ご案内のとおり歩道の下にCCボックスといいます管路を埋める形になります。で、11メートルのうち2.5m、2.5mの計、5mは歩道をとります。その結果、車道が6mになるわけですが、将来的に、技術がもっと進めば、地中化の管路がもっとコンパクトになるとか、地上機器が小さくなるかということはあるとは思いますが、今現在の技術水準ですと、11mを切るような道路ではそもそも地下埋設すること自体が技術的に難しい状況です。

施策の目標3点のご質問のお答えは以上ですが、何か不足がありましたら補足させていただきます。

今の最後の電線地中化の優先的な整備のところの考え方ですけど、その技術的なところはとてもよくわかるんですが、あと、地域の合意ということもあるかと思いますが、その他で、都道との関係で、オリンピックで使用するところを優先的にとか、道路管理者が違うところでの調整とか連携というのは、特にはないでしょうか。

例えば、国道、都道は、8割とか9割、地中化されています。現在、例えば白山通りは都道ですが、それも樹木の関係で陳情が出たりして、整備は止まっている状況です。路線整備をするためには、1回樹木を撤去するなり何かしなければいけないわけですが、千代田区も警察通りで大きなイチョウがあったんですが、ちょうど歩道の真ん中にイチョウが生えていまして、イチョウを撤去しないと、いわゆる有効幅員と言っていますが、歩道の幅員が2.5mとれません。それで、イ

朝日分科会長

保科委員

<p>朝日分科会長 湯浅委員</p>	<p>チョウを撤去しようということで当初案を組んで、地域の皆様方とお話しして合意形成がなされて、一応イチョウの伐採を始めたら、イチョウを保存してくれという陳情が、区議会とか、あと白山通りは都議会等にも出されまして、結果として陳情が採択されるような形になり、イチョウの伐採ができなくなってしまいました。この結果、イチョウを全面的に残すという形でもう1回路線の計画を練り直すという形になりまして、歩道の真ん中にイチョウが残るような形になってしまいました。</p> <p>有効幅員としては狭いところは1.8mぐらいまでになってしまいました。白山通りも縦の線は都道ですが、脇のところが区道になっています。それで、東京都のほうには脇の路線についても一部、区が負担してもいいからお願いできないかということは言っていますけれども、なかなか事業者が違うというのと、脇道の区道が、幅員が8mあればいいほうで、場合によっては6mとか5mとかとなると、全面的に地中化するのは、正直言って無理です。要するにトランスがあるところまでという形です。あと、街区構成にもよりますが、例えば、都道と区道に大きく面している大敷地があるところは街区単位で地中化ができるかもしれませんが、その奥のところになってしまいますと、地下の配管が設置できない状況になりますので、そこは非常に難しい課題です。ですから、一部路線でできるところもあるかもしれませんが、全てできるかというのと、なかなか技術的に難しいというのが実態です。</p>
<p>松井委員</p>	<p>はい。わかりました。ありがとうございました。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>そのほかのご質問がございましたらお願いいたします。</p> <p>松井委員、お願いします。</p>
<p>保科委員</p>	<p>今の地中化の話と関連しますが、36年の72%という数値は、どの程度実行可能な数値であるのかはなかなか読めないところです。現実的に着実に進めそうなんでしょうか。</p>
<p>松井委員 保科委員</p>	<p>これは、もう、ひたすら頑張るとしか言いようがないんですが、実は、地中化に関しましては、ご案内のとおり、千代田区全域下水道普及率100%です。地下には上下水道とか、後は場合によったらNTTさんとかいろんな事業者さんの管が既に埋まっています。当然埋設の図面もあるわけですが、実は、図面どおりに管が入っているとは限りません。</p> <p>そういうお話は実際によく伺いますね。</p> <p>実際、試掘をします。支障移設という言い方をしますが、要するに地下に配管をするべきところにほかの管が入っているケースがあります。そうすると、事業者さんがばらばらですので、まず、じゃあ、水道局さん動かして、下水道局さんその次に動かして、NTTさん動かしてと、支障移設ということをやります。で、支障物がなければ1年とか1年半ぐらいで管路の工事が始められます。支障物が多いところは、支障移設</p>

松井委員	<p>だけで、はっきり言って3年、4年かかってしまうケースもあります。</p> <p>ですので、今やっているところが、例えば神田和泉町に和泉公園がありますが、その前の道路については支障物があまりなくて、今月から管路の工事を始められるような状況になっています。支障物が多くて困っているところが二七通りという通りがあるんですけども、ちょうど靖国通りの1本南側の通りになりますが、そこについては、試掘をしたところですが、支障物がたくさん出て、支障移設だけで今後2年程度かかる見込みです。それ以降、管路の敷設工事をして、その後、既存管を撤去して、最後に舗装工事をするようになります。千代田区は既成市街地で既に地下にさまざまな埋設物がありますので、そういう面では二重三重の手間暇がかかるというのが実態です。</p>
<p>松井委員 湯浅委員 鈴木委員</p>	<p>72%は、その負担感を踏まえても、現実的に達成できるということですか。</p> <p>そうですね、かなり控えめな数字になっています。</p> <p>わかりました。</p> <p>鈴木委員。</p>
保科委員	<p>コミュニティサイクルですけども、利用者の内訳といいますか、区内の住民の利用者と、あと観光なんかで使う方もいらっしゃるかと思うんですけども、その辺はどのような属性の方が使っているのかをちょっと伺いたいんですね。</p> <p>実際この利用回数はわかるんですが、その内訳という形になってしまいますと、どういう方がどれだけ使っているというのはなかなか出てきませんが、例えば、会員種別が法人会員、1日会員、月額会員、1回会員とあり、法人会員は、法人の方ですのでこれは明らかなんですが、法人で使われる方は全体の1割も満たないような数字です。ほとんどが月額会員もしくは1回会員です。</p>
<p>鈴木委員 保科委員</p>	<p>なるほど。</p> <p>例えば、あと、1日パスの方も若干いらっしゃいますけれども、月額会員、1回会員で9割以上という状況です。</p>
鈴木委員	<p>何となく月額会員は区内の区民か昼間区民かという感じがしますが、そうと見て、よろしいでしょうか。</p>
保科委員	<p>登録者の属性という形になろうかと思いますが、1回会員が千代田区だけ、今、千代田区は29年3月31日で3万6,184件登録があり、そのうちの1回会員の登録が87%です。</p>
鈴木委員	<p>なるほど、わかりました。ありがとうございます。そういう何か属性に応じて、例えば適正なポートの配置場所とか検討できるかなというふうに、少し思いました。</p>
保科委員	<p>ポートについては、利用の高いポートというのがありまして、今、千代田区内57ポートありますけれども、断トツポートが丸ビルの南側のポートです。</p>

	<p>課題になっているのは、6区で広域連携をしています、約3割ぐらいの自転車が広域で動いています。今細かな分析をしているんですが、どうも朝の通勤で使われる方が多いようで、例えば9時とかぐらいの時間帯にポートに自転車があふれているようなケースとか、夕方の時間帯で1台もなかったりとか、課題になっています。</p> <p>それは、質の問題、ポートが、ラックの数が少ないということもあるんですが、それはさっきお話したように、道路沿いにポートを設置することが難しい状況で、民地をお借りしていることもあり、どうしても台数の制限があります。将来的にはポートに自転車があふれず、かつ、いつでも自転車があるような形にしなければいけないので、例えば自転車の再配置の仕組みだとか、ポートの適正配置だとかということを考えていかなければならないと考えていまして、所管のほうで、細かな戦略を練っているという状況です。</p> <p>ちなみに、広域連携については、やはり自転車の移動距離の問題がありまして、圧倒的に使われているのが隣接区、特に、港区と中央区さんからいらっしゃる方が圧倒的多数となっています。</p> <p>わかりました。</p>
<p>鈴木委員 松井委員</p>	<p>今も広域の利用は、このシート上では実施しているということはわかりますが、実際にどれぐらいの利用量があるかというのは出ていません。この点は、どれほど把握されていますか。</p>
<p>保科委員</p>	<p>把握しています。当初は1割ぐらいだったわけですが、直近のデータで約3割超えているような状況です。3台に1台は広域に動いています。ですから、いろいろ問題がありまして、千代田区には800台の自転車があるはずですが、多分区内で稼働しているのは半分にも満たないのではないかと考えています。</p>
<p>松井委員 保科委員</p>	<p>区をまたいでいるのですね。</p> <p>それは、大きな問題だろうということで、所管のほうに私が指示しているのは、千代田区の中だけの自己完結型の再配置システムができないかということで、今、宿題を投げているんですが。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>結局、区外に乗っていかれて多分夜の時間帯には区外に置かれ、朝、通勤で使われているのではないかと考えられます。昼間は区内に自転車が戻ってきてあふれる。日中も、お仕事で使われれば外に出るという形もあるかもしれません。ですので時間帯別、ポート別の動きを細かく把握し、自転車にGPSを積んでいますので、行き先も全部トレースして、データ整理するように指示はしてあります。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>今の自転車のことと関係するんですけども、放置自転車対策なんですが、全国的に見ると、もうピークは過ぎていきますよね。</p>
<p>保科委員</p>	<p>そうですね。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>千代田区はやっぱり相変わらずといいますか、ちょっと、結構困難な問題があるのでは。</p>

保科委員	<p>おかげさまで、実は3年ほど前、秋葉原が放置自転車の東京都でトップになっておりまして、それで、対策として駐輪場を増設するという話もあったんですが、区長のほうの指示もありまして、地域で協議会をつくって、いろいろ取組みをさせていただきました。秋葉原ですから、JRさん、あとはTXさんですね、常磐新線さん、あとヨドバシカメラさんとか入っていただいているいろいろやった結果、おかげさまで半分以下まで激減はしました。それでもまだ300台とかありますので、引き続き放置自転車対策はやっていかなきゃいけない。このコミュニティサイクル事業もそうなんですが、将来的には放置自転車対策になるのではないかとということで始めたんですけども、まだ、その辺の因果関係がはっきり見えていないので、引き続きやっていかなければならないと思っています。</p>
鈴木委員	<p>わかりました。</p>
松井委員	<p>もう一つだけよろしいですか。10年後の取組みを考えたときに、バリアフリー歩行空間の整備ということが目指すところですが、確かに電柱の地中化も1つです。障害を持たれた方にとってみると、電柱があると歩きにくいということが課題です。しかし、それ以外の要素のバリアフリーはたくさんあると思います。段差の問題や見やすさの問題があります。この点から考えますと、指標が地中化だけに限定してしまうというのはどうだろうかという疑問がわかります。指標に関しては何かご検討されていますでしょうか。</p>
保科委員	<p>たまたま象徴的な指標で挙げたわけですけども、道路の機能というのは、以前は例えば空間機能とか交通機能とか言われましたけども、今、道路の機能がすごく多様化しているというのが我々の現状認識です。</p> <p>具体的に言えば、例えば今お話ししていたのは、高齢化が進んでいますのでバリアフリー化。それはセミフラット化とか、そういう取組みをさせていただいています。そのほか、実は、道路は、今日はたまたま涼しいですけど、路面温度は実は60度ぐらいになります。ヒートアイランド対策も含めて、遮熱性舗装であったり、景観という意味合いから、例えば街路樹の問題とか、あとは防災の観点からすれば、例えば保水性舗装とか、そういうような、道路の機能を整理して、総体として取り組んでいくこととしています。</p> <p>ですから、一言で申し上げると、ここはバリアフリーという言葉を使いましたが、いわゆるユニバーサルデザインという観点からの道路整備が必要なのではないかとということで、先ほど申し上げた道路整備方針の中で、体系的に整理した形でやっていきたいと考えています。特に、区道は幅員の狭いものが多いので、都道、国道と違って、いわゆる幹線道路ではなく、広域的に延びているわけでもありません。区民の皆さん方にもお願いしていますが、自分の家の前の道路は掃除してもらったりとか、あと打ち水してもらったりとか、あとは道路上でいろんな、地域の</p>

湯浅委員	<p>お祭りだとか、あとは、最近は少ないですけども、通行止めにして子どもの遊び場にするとか、コミュニティ的な要素も含めて多目的に利用されているということがありますので、そういう視点も含めた形での道路整備をやっていきたいということで、取組みをさらに強化したいと考えているところです。</p> <p>では、よろしいでしょうか。</p>
湯浅委員	<p>(「はい」の声あり)</p> <p>それでは、皆様の評価のご報告をお願いしたいと思います。今回もホワイトボードに既に皆様の評価のポイントを記載させていただいております。ポイントの変更も可能でございますので、ご意見を含めてよろしくをお願いいたします。</p>
朝日分科会長	<p>では、朝日委員からでよろしいでしょうか。</p> <p>はい。私のほうは変更なしで、取組みのほうは4となっています。主な取組みについては、特にコミュニティサイクルに関しては、実証実験を踏まえているとか、今もお聞きしていてデータをとっての対応がきめ細くくなされているという点で、すごくいい取組みになっているのではないかなど。根拠に基づくものになっているということ、課題の把握もされているということで、4。</p> <p>バリアフリーと電線地中化のお話で、街路樹の話などがありまして、地域との協議が必要という認識は適切ですが、道路や交通の機能が多様化していて調整のコストがとて高くなっていると思うんですね。そこで景観とかコミュニティに関するほかの施策との関係をもうちょっとわかりやすく発信する。取り組まれているのはとてもよくわかったんですけども、その辺をもう少しわかりやすく発信する必要があるのではないかなというところで4です。</p> <p>指標については、コミュニティサイクルの台数が増加している中でも、回転数が進捗しているということもわかりますし、あと、電線類の地中化も実績が出ています。今お話を伺ったとおり実際には、進捗がなかなかどうなるかというところもあるのでしょうかけれども。</p> <p>今後の方針に関しましては、自転車利用の促進については、機器のメンテナンスとか事故とか利用の増加に伴う視点があるのが適切であると思うんですが、ほかの交通機関との連携は可能な限り考えていったほうがいいのではというところです。交通——そうですね、道路ストックを多機能化するというのはよく言われているんですけど、問題は交通なんですね。</p>
保科委員 朝日分科会長	<p>交通管理者です。</p> <p>それぞれの利用で、街路樹もそうですし、景観などとの調整はなかなか大変かと思いますが、ほかの施策との連携の強化が必要ではないかということですか。</p> <p>あと、バリアフリー化と電線地中化についてはお話のとおりかと思ひ</p>

湯浅委員	<p>ますが、整備コストも調整コストも高いので、優先順位の根拠を明示することを重視していくべきではないかと思いました。</p>
鈴木委員	<p>以上です。 ありがとうございます。 それでは、鈴木委員、お願いいたします。 はい。まず、主な取組み4点としましたけども、コミュニティサイクルの普及にしても、自転車道の整備、バリアフリー化の推進、いずれも東京の顔である千代田区にふさわしい、また、オリンピックを控えた千代田区に必要な事業だと思っておりますので、それが着実に進んでいるように感じましたので、4とさせていただきます。</p>
保科委員 鈴木委員	<p>指標については、現在の2つの指標はそれぞれわかりやすい指標ですし妥当だというふうに思います。先ほど松井委員からもご指摘ありましたように、バリアフリー化についてもやはり指標が必要ではないかなと思います。例えば、駅のバリアフリー化ですけれども、区内の鉄道駅全てにバリアフリー経路、1ルートを確保する、2020年までにという目標がございますけども、確かに、私のゼミ生にも車椅子を利用している学生がいるんですが、神保町駅もたしか1カ所ぐらいしかエレベーターがなくて不便をしているという話も聞きます。ですから、例えば区内の主要な駅の数も五十幾つだったと思っておりますけど……</p> <p>五十数駅あります。</p> <p>そのうち何カ所、何%達成したとか、あるいは2経路確保できたのは何%とか、そういうふうにしていただくのも1つの考え方かなと思いますので、そういうのがあると、鉄道事業者さんのほうもある意味プレッシャーになるかもしれませんし、ご検討いただければなと思いました。</p> <p>今後の方針ですけども、一応3としているんですが、その理由は、区民アンケートの満足度が非常に低い状態になっていて、36事業中34位ということですよ。昼間区民のほうは、これ逆に高くて8になっているんですけども、この理由もちょっとにはよくわからないんですけども、多分、実際に住んでいらっしゃる区民から見ると、目に見えて地中化が進んでいないとか、あるいはバリアフリーの面でいろいろと日常的に不便を感じていらっしゃるような方もいらっしゃるのかなと思うんですね。取組みとしては確かに着実に進んでいるんですけども、なかなか区民の目線からすると、実感が伴わないというところもあるのかなもしいないと思いました。そういう面で、例えば取組みの状況をもうちょっとわかりやすく説明するとか、そういった工夫が必要かもしれないと思ひまして3というふうにさせていただきたいと思ひます。</p>
湯浅委員	<p>以上です。 ありがとうございます。</p>
松井委員	<p>では、松井委員、お願いいたします。 私も当初示した4、4、3のままです。既にご指摘いただいたとおり</p>

でありまして、自転車駐輪場の整備やコミュニティサイクルの事業についても着実にポートの整備を進められておりまして、非常に評価ができるなと思います。また、電線類の地中化もなかなか困難な業務ですが着実に目標値に向かって達成をしています。

指標も同様ですが、達成度が着実に進んでいますので、双方とも4という評価をさせていただきました。ただし、この政策は、歩きやすさ、だれもが安心できるという点が目的です。その点に関する指標化として特にバリアフリーに関してご検討いただくのは必要と思いました。

今後の方針3とさせていただきます。それは、広域連携やコミュニティ事業、整備はかなり進んでいるよう、または検討は進んでいるようですが、継続的にどのようにさらに展開していくかということについて、具体的なものがまだ見えないかと思ったところもあったためです。特に、電線類の地中化は進められるところは当然進みますが、ここからやはり課題が大きいのかなと思います。残余地域というところに対しての説得や調整コストを考えますと、目標年次の中でどこまで進めるかというのが難しいのかなと思います。その具体策を含めた検討が必要ということで、3とさせていただきます。

以上です。

ありがとうございます。

では、須田委員、お願いします。

ハード中心というふうに考えておりまして、先ほどほかの委員さんからも連携が必要だというのは、確かに今後出てくる課題としても思っております。その視点で見た関係で、全部4という形にさせていただきました。

取組みのところですが、コミュニティサイクルとバリアフリーというものを代表的に挙げているというのは評価しています。ただ、道というのは区内で完結するものではないので、周辺区、6区というところもありましたけど、そことの調整が今後重要になってくると思います。この6区の区長がどういうふうを考えるかということも大きく影響してくるので、そう簡単にはいかないと思いつつ、その枠を広げていくことに大きな意味があると思っています。

それから、鉄道事業者のバリアフリーですけれども、今度、私が聞くところによると、事業者、鉄道事業者がエレベーター、エスカレーターを設置するということなのですが、都や国、区か補助制度ができ、そういうことが確立してくると、事業者、都や区の補助を資金のもとに広がってくると。先ほど連携というのがあり、必然的に普及してくると、歩きやすいとか移動しやすいまちになっていくと思います。

指標ですけれども、現状値の数値が上がっているところで評価しています。地中化とか街路樹の関係、道路に関わるものというのは、先ほど保科部長もおっしゃったように、整備方針が明確になってくると、区民

湯浅委員

須田委員

	<p>の理解度も高まってくると思っています。うちの前の地中化はいつやるのだろうみたいな話を、政策の中で区民に理解していただくということが必要なので、期待をしているところです。</p> <p>今後の方針については、区民アンケートの重要度のところもかなり高い。「まあ重要」というのも含めると高いので、先ほど道路そのものの関係からいえば、災害時の部分ですとか、歩きやすさの部分というものも、10年後の課題として頑張ってもらいたいという意味で4にしました。</p> <p>全体をBとしたのはその総合的なところと、周辺区の関係、鉄道事業者、道路管理者、警察も含めて一体としてやっていくための区としてイニチアティブをとっていくことに期待しております。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、大矢委員、お願いいたします。</p>
大矢委員	<p>はい。施策の目標の「だれもが移動しやすい環境の整備」、どちらかというとバリアフリー的なものと、あとは自転車とありますけど、千代田区の場合かなり昔からJRが何本も入っている、地下鉄も丸ノ内線、銀座線をはじめ相当数あって、昔は都電もあったけどその後地下鉄もあるから、大体1つの場所からどこの駅を利用しようかというときに、JRとか地下鉄が5個も6個も5分以内に使えるような状況にあるから、そもそも交通の利便性でいえば移動しやすくて、そっちの面から言ったら、もう断トツなのかなとは思いますが、その辺は、住んでいると、あまりその利便性のところは評価しなくなっちゃうのかどうか、その辺ちょっと疑問なんですけど。なので、環境的に使う駅が5分圏内にそれだけの数があるというようなのはめったにないような状況なので、そこはこの移動しやすさの中のちょっと、部分、別なのかなという気がします。</p> <p>ちょっと話がそれましたけども、主な取組みのところで自転車の駐車場の新設や増設をして、これは、特にコミュニティサイクルについてはこの赤い千代田区の自転車、まちの中で本当によく見かけているので、利用者は確実に増えているというのがよくわかります。なので、この事業を拡大しながら利用者が確実に増えていると。バリアフリー対策についても、今説明があったように、厳しい中、少しずつでも進めていくということで、ここについては4という評価です。</p> <p>で、指標なんですけども、電線の地中化率は3年前と比べて1%しか、これ、大変なので伸びていない。今後、毎年2%ずつなんですけども、目標は非常に厳しいんですけども、ここは適切な指標かなとは思いますが。ただ、この67、68、70と11メートル以上とあるので、じゃあ、11メートル以下は捨てちゃうのか、その何%なのかって、これ、参考値でもいいんですけど、11メートル以下のところが数%をどのぐらい上げていくのかというのは、ちょっと指標で欲しいかなというところはありま</p>

す。

あと、海外でよく、何だろう、ロンドンとかパリとかなんかでよく100%とか出てくるところが90%とかってあるんだけど、あれは、細かい——調べてないからわからないんですけど、細い道も含めてそういうパーセンテージになっているのかどうか、ちょっと私、そこはわからないんで、何であんな海外の都市ですごい値が出るのかなというのはいちよつとわからないところなので、そこはそういう細い道まで含めてそういうところはやっているのかどうかがいちよつとわからないので、そこは何とも言えないところです。

それと、コミュニティサイクルのちょっと回転率については、2年前と比較して0.9増の1.9なんですけど、31年度の目標値は0.1%しか増えていないのは、これ書いてありますけど、台数増やせば回転率が下がると書いてあるので、ということは、どんどん利用が増えていって投入を大きくすると、回転率ということに関して言うと、あまり指標的に実績値が上がってないような感じがしてしまうので、指標をこの、回転率よりも、何ですか、貸し出しして利用した台数そのものやっていたほうが、この回転率よりどンドンどンドンと広めていったときに、あまり回転率が上がっていかないようなイメージを与えちゃうので、そこでちょっと指標についてはそういう実績率として伸びているというところを示したほうがいいんじゃないかなと思って、3にしました。

今後の方針ですけども、電線の地中化を着実に進めていくということは当然評価できますけど、今後その期間をいかに短くしていくかということと、あと、コミュニティサイクル事業については、さっき拡散しちゃっているんで区内でもう一回戻したらどうかというような話もあったんですけど、そこは逆に、何ていうんですかね。この事業は、どちらかというともう、区よりもオール東京とか、逆に拡大しながら、事業としては1区でやるというよりも、わたし的にはそれをもっと拡大していかないと、この自転車はどこでも乗り継いでいけるというふうに思ったので、そこは収縮するよりも拡大していったほうがいいかなと思っています。全体的には今後の方針としては、着実に全体を進めていくということで4ということ。

全体もBということですけど、コミュニティサイクルにおいては実証実験開始から短期間でかなり大きな成果を上げているということで、先ほど言ったように、まちなかでもすごく自転車を見れるようになっていきます。今後さらに成果が期待できるということと、電線地中化は、もう本当に予算が非常にかかるということと短時間ではもう無理だということがあるので、今後は地中化についてはバリアフリーの観点から優先的に取り組む路線を決めていくということと、先ほど言った11メートル以下の道路についてはどうするのかというようなことも含めて、もう捨てちゃうのかね、それともやっていくのかということも含めてその辺は

湯浅委員	<p>方向性が欲しいなというふうには思っています。それで、全体的にはBということでもいいかなと思っています。</p> <p>以上です。</p>
松井委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>皆様、ほぼ同様の評価でご意見をいただいていると思います。</p> <p>ただ今のほかの委員のご意見をお伺いした上で、何かご質問やご意見などがあればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。</p> <p>今、大矢委員ご指摘いただいた指標を回転率ではなくて実績でいくということが出てくると、増やせば増やすほど台数が増えていくということになりかねないでしょうか。母数が変化していくので回転率を継続するのがよろしいのかなと思いましたが。</p>
保科委員	<p>はい。ちなみに利用回数は27年度が23万7,000回、28年度が63万9,000回になっています。回転率を採用したというのは、諸外国が、回転率が意外とスタンダードな指標になっているためです。例えば、イギリスのパークレーバイクとか、フランスもそうですけど、大体6とか7回転ぐらいしています。</p>
松井委員	<p>高い回転率ですね。</p>
保科委員	<p>はい。それと比べると、まだ日本はまだ低い。</p> <p>逆に、28年度から自転車を800台に増やしました。従来500台だったので、その関係で回転率は1.51まで落ちています。ただ、さっき申し上げましたように広域連携の開始により、800台が千代田区内で走っている状況には恐らく今ないんだろうと思われま</p>
松井委員	<p>対象のとり方を広域まで含めてどう考えるかを考えなければならないのですね。</p>
保科委員	<p>そうですね。コミュニティサイクル事業は今年の10月で丸3年、今、実証実験中ということですので、いろんな実験結果も踏まえながら、ただ、1つ言えているのは、広域連携していますけど、事実上は自転車の移動距離の問題がありますので、現状でも7割は区内の移動です。それも30分以内。3割は外へ出ていますが、中央区とか港区とかで、距離にしてもせいぜい数キロです。ですから、例えば新宿の先のほうに行ったりとか、あと今度品川が増えるという話ですが、品川まで乗っていくことはまず考えにくいのかなと思われま</p>
湯浅委員	<p>そのほかご意見ございますか。</p>
朝日分科会長	<p>朝日委員。</p> <p>これもちょっと細かいかもしれませんが、諸外国で6回転とか7回転というのは、乗り捨てが可能であるとか、いろいろ制度の違いもあるということですか。</p>
保科委員	<p>そうですね、ポートのやっぱり数です。</p> <p>あとは、ラックの数がもう全然違いますね。私も現地を見たわけではないんですが、写真等々を見ると、駅を出ると、駅の真ん前に二、三十</p>

<p>湯浅委員</p>	<p>台ずらっと、自転車が並んでいます。外国の場合はラックに貸出機能がついている形のシステムですけども、日本は、千代田区でやっているのはGPS搭載なので、ラックそのものは貸出返却機能がありません。中国では盗難が頻発しているという話も聞きますが、日本では盗難はほとんどありません。</p> <p>はい。</p> <p>そのほかのご意見はございますか。</p> <p>（「なし」の声あり）</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>ないようでしたら、お時間もございますので、これで施策の目標につきましての分科会の評価を取りまとめさせていただきたいと思います。分科会長のほうで、今回の評価の発表と取りまとめをいただければと存じます。</p>
<p>朝日分科会長</p>	<p>はい。</p> <p>点数から参りますと、主な取組みについては合計20、指標については19、今後の方針が17ということで、大体高い評価なのですが、その中でも相対的に高い点数になっております。</p> <p>ご議論があったところの特徴としては、主な取組みについては、いろいろな連携だとか調整がなかなか難しくなっている中で、進捗、取組みについては適切であるとなりました。</p> <p>指標についてのご議論が比較的多く、3というところも含めて現行の指標については順調に進捗という評価なんですが、指標自体のご指摘が幾つかあり、バリアフリーということがやはりだれもが移動しやすいという施策の趣旨からいうと指標化が望まれるということがありました。それが区民の理解、実感につながるのではないかと指摘です。</p> <p>それから今後の方針のところも議論が多かったのですが、今の課題認識自体は適切であると。ですが、その中身としていろいろな意味での連携が指摘されました。地域的にその6区との広域連携であったり、景観ですとか、そういったほかの施策、またコミュニティ施策との連携、それから鉄道事業者だとかほかの道路管理者だとか、そういった主体間の連携ですね。それらの認識はあるんですけども具体的なところがこれから期待されるというところで、ほかの2つよりは少々低い評価となっておりますというところです。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>はい。以上。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、これで施策の目標3につきましての評価を終了させていただきます。</p>

（2）施策の目標7

<p>湯浅委員</p>	<p>続きまして、施策の目標7の評価に入ります。</p>
-------------	------------------------------

保科委員

委員の交代はございませんので、引き続き始めさせていただきます。

まずは、いただきましたご質問につきまして、所管部長の環境まちづくり部長より、ご説明をお願いいたします。

はい。では、7番の「身近な緑を増やし、うるおいのあるまちをめざします」という項目です。主な取組みで1点、指標で2点ご質問いただきました。

まず、主な取組みのほうですが、アダプトシステムの管理団体はどのような主体がどのような経緯で管理団体となっているのでしょうかというご質問です。

今現在、道路の路線数でいいますと14路線で、公園は10公園でこのアダプトの協定を結んでおります。経緯とか管理団体ですが、ほとんどが町会です。あと、地元の商店街、企業と結んでいるケース、その他ではTMOといたしまして、幾つかの地域でいわゆるタウンマネジメント組織を設置しております。そこと締結しているケースもあります。ということで、さきほども申し上げましたが、私どもは区道については、基本的には生活道路という捉え方をしておりますので、やはり地域の皆さん方にも愛される道づくりをしていかなければいけないと考えておりますので、このアダプト協定につきましては、今後も進めていきたいと考えております。その前提として、先ほどの地中化もそうですけれども、地域との協議組織をつくり、計画段階からいろいろ話し合いをさせていただきながら進めていきたいと考えています。先ほど申し上げました和泉公園の前が今度地中化の路線の管路の埋設をすとお話ししましたが、実はこれまで11回、地元協議会を開催いたしました。そのぐらい、手間暇が非常にかかるような事業になっています。

それから、2つ目の指標のところですが、濠の水質改善について、環境省、東京都との役割分担において、区が調整等でコントロールできる範囲はどの程度でしょうかということですが、濠については、内濠と外濠と千代田区はありますけれども、外濠に関してはコントロールできる範囲というのは現状ほとんどない状況です。内濠に関しては、ご案内のとおり、内濠は日比谷濠のところに環境省さんが浄化装置を設置しているのはご案内かと思いますが、丸の内の開発の中で、日比谷濠に面しているちょうど真ん前にJXビルというビルがありますが、その地下に浄化装置を設置しています。日比谷濠から道路、内堀通りをまたいで導管を引いて濠の水を引き込んでJXビル地下にある浄化槽で浄化して、また戻しています。これは、開発の中でそういうことをやりました。これには、事業者さんの協力が要るんですけれども、そういう、地域の開発の中でもろもろ話をしていく中で一定のお願いができるという余地はあります。

ちなみに、内濠はかなり私自身もきれいになったとは思っておりますが、外濠は課題で、ご案内のとおり、東京は下水道が合流式、雨水と汚

	<p>水が一緒になっているということで、越流水といいます。雨が降ってあふれた水が汚水とともに濠に流れ込んでしまいます。それで、外濠に関しては越流水対策が1つ大きな課題になっています。今、東京都のほうで、これはいわゆるゲリラ豪雨対策もあるんですが、地下に貯留管をつくっています。外濠の市ヶ谷から飯田橋にかけての外濠で、新宿区側になります。それができれば、越流水対策が多少緩和されるのではないかと期待しております。外濠も水質改善ができるのではないかと思います。</p> <p>それから、3点目の緑化推進要綱のほか、民間事業者の緑地確保に関して独自のインセンティブ制度、またはその検討はあるのでしょうかということなんですが、今現在はこの緑化推進要綱で250平米以上の開発については一定の緑化をしてくださいというもので、この効果はかなり大きく、民間事業者さんにご協力をいただいております。</p> <p>それから、当然、緑化要綱も絡むんですが、そのほかにいわゆる面的開発に伴って、いわゆる公開空地も含めて空地の確保ということはかなり強力に進めております。ですので、なかなか高いビルを建てるということと一種のトレードオフの関係になりますので、いろいろご批判もあるかと思います。周辺に大きなオープンスペースをとることによって、そこを緑化するという形の取組みをさせていただいております。このオープンスペースという部分が非常に大きな面積に現在なっています。</p>
湯浅委員	<p>それでは、ただいまのご説明もしくはその他の事項につきましてご質問などがありましたらお願いいたします。</p>
松井委員	<p>松井委員、お願いします。</p>
松井委員	<p>今の、最後の緑地面積の件ですが、確かに千代田区ですから、高層化に伴って、公開空地はかなり確保し、そこが緑になるということになります。まだ測定はされていませんが、今後、かなりな規模で緑被が進むというふうに想定されているということでしょうか。</p>
保科委員	<p>そうですね。はい。</p>
松井委員	<p>公開空地の利用は、緑にすることとともに、例えば地域に開放する場合もあります。</p>
保科委員	<p>そうです。</p>
松井委員	<p>安全固めをする、事件等が起きないようにするために、空地に緑を置く。しかしこれによって空地がむしろ使い勝手が悪くなる。</p>
保科委員	<p>そうですね。</p>
松井委員	<p>それもトレードオフの関係ですが、その辺はやはり緑が優先であるというふうにお考えですか。</p>
保科委員	<p>そうとは限りません。公開空地については、いわゆる歩道状空地だとか、広場状空地だとか、幾つか要件がありまして、先ほどのポートもそうなんです。最初は公開空地にサイクルポートを置けませんでし</p>

	<p>た。特に歩道状空地はまかりならんということで厳しかったんですけども、基本的に樹木を植えると逆に歩道が、機能が損なわれてしまいます。</p> <p>最近の利活用として、公開空地を使って、例えば昼間キッチンカーを入れたりとか、そこで地域のさまざまなイベントをすとか、そういう多目的に使われていますので、全て森にしてしまうというわけではありません。森になっているのは、ちょうど旧富士銀行の本店のあった大手町タワーのところでは、「OOTEMORI」という言い方で、森にしています。実際、ほかの場所で約3年ぐらい実証実験をして、そこで植えた樹種をそのまま持ってきています。最初から森にしようということで計画的に森がつくられています。そういうつくりもありますし、そうじゃないところもあります。ですから、場所、場所によって考え方というんでしょうか、捉え方が違っているというのが現状です。</p>
松井委員	<p>目標値をそろえるために公開空地に中途半端な緑が植えてある感じがします。</p>
保科委員	<p>そうですね。</p>
松井委員	<p>それでは、緑を確保するためにはどうするのかといわれると、なかなか難しいんですけども。</p>
保科委員	<p>そうですね。この緑については、緑被率という捉え方が、千代田区の場合、緑の基本計画もありますが、衛星写真を撮ったりすると、千代田区そのものは皇居がありますので……</p>
松井委員	<p>ええ、多いですね。</p>
保科委員	<p>はい。非常に高い数字が出てきます。では、その緑被率という捉え方がいいのかどうなのかというのは私自身も疑問に思っています。樹木の問題もそうですが、例えば夏場なんかの日陰のつくり方だとか、そういうような捉え方もあるでしょうし、あとはCO₂の吸収なんて捉え方もあるでしょうし、例えば芝にしたとしても、実は芝というのは刈っちゃいますので、CO₂のいわゆるための効果はほとんどありませんが、運動場も芝にすると養生期間や今日みたいな雨の日は使用できず、利用勝手が非常に悪いとかあります。それでは、人工芝がいいのかというと、それはそれでまたいろいろ問題があると思いますので、さまざまなトレードオフの要因があり緑化に関してはもろもろの要素も踏まえながら、取り組んでいかなければと思っています。</p>
松井委員	<p>もう一点だけ。生物多様性では、区民参加型モニタリング調査の参加人数が、28年度は3倍になっています。これはこれだけ見るとすごく評価が高いなと思いますが、これは瞬間風速的に捉えたらよいのか、それとも、継続的に小2、小4、小6が必ず教育の一環で来るようになったと捉えるのが良いのか。その辺はお教えいただいてよろしいですか。</p>
保科委員	<p>ええ。実は、これ、生き物探しという名前で言っていますけれども、最初はなかなか参加がありませんでした。</p>

松井委員 保科委員	<p>何かそうでしょうか。というと、申し訳ありませんが。</p> <p>いろいろ学校等にPRして、学校が集団で行っているということはないです。学校が、例えば、1学年行くとすごい数字にはね上がってしまいますので、いろいろPRした結果こういう形になっています。</p>
松井委員	<p>ただ、これについては、昨今もヒアリの問題だとか、その前はいわゆる蚊で刺されて、デング熱の問題だとか、いろいろあったりして、なかなか生物多様性といいながら、もろもろの難しさを抱えながらやっています。悩みながらやっているというのが実態です。</p>
保科委員	<p>なるほど。これは、27年度もこの傾向、増加傾向にあったということなのですか。99、例えば140、276みたいな上り調子でしょうか。</p>
松井委員 湯浅委員 鈴木委員 湯浅委員	<p>いや、もうこれは、かなり厳しいかもしれないですね。今年も、これからやりますけれども。</p> <p>なるほど。わかりました。ありがとうございます。</p> <p>そのほか、特段ご質問がなければ。鈴木委員、よろしいですか。</p> <p>はい。大丈夫です。</p> <p>それでは、皆様の評価のご報告をお願いしたいと思います。</p> <p>朝日委員のほうからよろしいでしょうか。</p>
朝日分科会長	<p>はい。生物多様性の推進については、あれは瞬間風速という指摘もありましたけども、やっぱり環境教育を通しての取組みはインセンティブですよね、特に小学校を通してというのは若い世代への環境教育の有効性が高いという観点からはすごく有効かなと思いました。</p>
	<p>あと、アダプト制度や緑化要綱などに基づく取組みも、土地が限られている中で環境面のヒートアイランドなどのコストはとても高いので、それを反映して取り組まれているという印象を持っています。</p>
	<p>それから、濠の観点で質問させていただいたのですが、その検査主体は区であるものの、その取組み自体が環境省とか都に依存してしまうところが大きくて、区の努力でコントロールできる範囲かという点から見ると、ちょっとどうかなと思う。ただ、だからといって濠が汚いとしてそれをどうでもいいというわけではないんでしょうけど、成果という観点から見るとそこが気になっています。</p>
	<p>指標も同じですね。指標自体は順調に推移していると思うのですが、濠の水質指標に関しては役割分担がありますので、区の努力が直接的に反映されるとは限らないとすると、検討の余地があるんじゃないかなと思っています。</p>
	<p>それから予算の上では、水辺空間とか公園の整備の比重が大きいと思うんです。ハードの部分が大きいと思うのですが、整備の進捗に関する指標の観察も必要かなとも思いました。緑被のお話が今あったんですけど、屋上緑化とか壁面緑化というのは入っているんでしょうか。</p>
保科委員	<p>入っています、はい。</p>
朝日分科会長	<p>はい。わかりました。</p>

<p>湯浅委員</p>	<p>それから、今後の方針について、指標には屋上とか壁面緑化というのは入っているかと思うんですが、面的に整備するという事になると公開空地を使うにしてもやはりいろんな用途とのトレードオフが発生してきます。屋上緑化とか壁面緑化はコストが高くて難しいというのは聞いているんですが、そちらも重視する必要があるかと思えます。それから民間事業者のほうも、整備のインセンティブだけではなくてメンテ部分もハードルになるのかなと思うんですが、そういった視点を強化する必要があるのではないかという考えを持っています。ただ、ポイントとしては、いずれもあまり問題なく進捗しているのかなとは思っています。</p> <p>以上です。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、鈴木委員、お願いいたします。</p> <p>はい。まず、ポイントの変更はありません。4、4、3ということになりますけども、主な取組みですが、生物多様性の推進にしてもあるいは地域として身近な緑の保全と創出にしましても、非常に丁寧に地域の団体や法人と連携しながら取組みを進めているというふうに思えます。また、緑化推進要綱など、そういうところを制度化する中で取組みも行われているということから評価いたしました。</p> <p>それで、区民アンケートを見ても比較的満足度が高いと思います。千鳥ヶ淵や北の丸公園のイメージがやっぱり強くありますので、そういう意味で満足度も高いのかなと思いました。あと指標ですけども、指標についても、これ3つの指標がありますけども、いずれも達成度を図る指標としておおむね妥当かなと思います。</p> <p>最後に、今度の取組みなんですけれども、そうですね、さまざまな団体と連携協働するんだと。環境連携会議をつくったり、アダプト制度を用いていらっしやったり、24団体と協定を結ぶとやっていらっしやいますけども、まずはそういうネットワークづくりという段階が大事だと思いますけども、その次の段階としては、やはり具体的な活動実績をどう上げていくかということになってくるのかなと思うんですね。ネットワークをつくるというのはまず第一段階で、その上で第二段階として実際の成果を出していくということだと思いますので、今後の方針としては、そういう成果を上げていくのかということをも明確化する必要があるかなと思いました。</p> <p>さらに、それが明確になってくると、今度はそれを指標として、例えば活動の開催回数とか参加人数とか、またそういうものも見えてくると思えますので、そういう第二段階に入っていくような状況になっているのかなというのが私の感想でございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、松井委員、お願いいたします。</p>

<p>松井委員</p>	<p>私、3、3、3にしていますが、4、4、3に変更させていただければと思います。</p> <p>お話を伺いまして取組みでは、瞬間風速的な感じもありましたが、モニタリングではかなり熱心なPRを展開されて実績をあげていることが把握出来ました。そのため取組みとしての評価は高いかなと思っております。</p> <p>濠に関する調査につきましても着実に進められているようです。この指標、主な取組みともに、4というようにさせていただきました。</p> <p>ただし、今後の取組みは3のままにさせていただきます。この施策では将来的な目的、目標は、水辺空間を創出することにあります。今回の施策、事業それぞれが、調査や体験に重きが置かれていて、実際にどういう空間に利活用していくのかは、今回の施策の実績の中では少し読み取れませんでした。場合によっては別のところで予算付け等をしているのかもしれませんが、それがわかるように今後具体化をこの施策の体系の中で示していただきたいなというような感想を持ちました。そのため、3という評価にさせていただきました。</p> <p>以上です。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、須田委員、お願いいたします。</p>
<p>須田委員</p>	<p>7の項目については、4、4、4、変更はございません。</p> <p>主な取組みから行きますと、生物多様性の関係で、意識向上という意味では、区内大学とか中学生とのコラボ、若い人たちの環境教育といいたいでしょうか、意識を高めていくということで、千代田の特性として川があるので、舟運事業などと結び付けて対策を広げていくと良いと思っています。</p> <p>指標については、数字が上がっているという点では評価をしていますが、緑被率というのも先ほど委員のお話もあったとおり、ここでのいいのかとの疑問は残ります。</p> <p>お濠の悪臭について、今の時期になると、非常に苦情が多いというのを毎年同じパターンで繰り返しているの、保科部長が言われていたが、環境省との連携というのはあるのでしょうか。そのことを重点的に進めていただきたいなという思いはあります。</p> <p>結論から言うと、庁内の横のつながり強化ということになるのですが、環境教育は子ども部とか、地域の皆さんが花を植えていくみたいな意識というのを強めていく上では、環境まちづくり部が中心になりつつも、他の部署との連携強化が必要ではないかと思っております。</p> <p>全体的に言えば、朝日委員のご指摘にございました環境省とか東京都下水道局との連携と、近隣区も含めて環境をよくしていこうという意識改革みたいなものができれば良いと思っています。</p> <p>以上です。</p>

湯浅委員	ありがとうございます。
大矢委員	<p>では、大矢委員、お願いいたします。</p> <p>はい。お濠の話が出ていますけど、確かに、直接区ができることは少ないんですけど、かといって内濠も外濠も神田川も含めて区の川なので、そこは何かしなきゃいけないんだなと思いますけど、確かに雨水と下水が一緒になっている方式、千代田区がやっぱし早くからのそういう基盤整備が、インフラ整備が進んでいたから、もう五、六十年ぐらい前には多分、もっと前なのかもしれないけど、100%の下水が普及しちゃっているの。練馬とか周辺のほうへ行くと、雨水と下水が分離とかされているんだけど、インフラが早かったがゆえに逆に言うと一緒になっちゃうから、雨上がりなんかだと、かなり雨が降った後のその、川とかの、区の後ろの川のところもおいますよね、やっぱり、そういう、出てきちゃって。ただ、それでも、昔の神田川だとかだと、ぼこぼこ何かこう、川の下から常に、何だろう、何が出てくるんだろうな、硫黄みたいな、特にぼこぼこぼこぼここと、神田川のとにかく、ぼこぼこぼこぼこ出ているんですよ、すごい汚れていて。そういう——メタンガスかな、そういう時代からすると、各段の進歩がありますよね。ヘドロの川みたいだったようなものが、魚が泳いでいたりしていますから。昔だったら絶対に生きていられないような川が、今は普通に、神田川は普通に魚がいるということからすれば、確実に進んでいるんだなというふうには思います。で、本題のほうに入っていきます。</p> <p>主な取組みで生物多様性の推進のところは区内11大学の連携とか環境団体とか環境連絡会議を開催するなど、今度さらに参加者が拡大していくこととしているということで評価できます。また、緑化面積も5年間で緑化推進要綱の基準値よりも3割多い20万5,000平米の緑化をしているということも高く評価できます。</p> <p>で、指標ですけど、これはちょっと聞いて、先に聞いちゃえばよかったんですけど、ここの現状値のモニタリングの参加数276人で、31年度は一旦200人に落ちてまた300人だったんで、これが何で一旦目標値が落ちちゃったのかわからないんで、そういうふうなのでちょっと、ここのところの目標値が落ちている説明がはっきりしていれば、ここを4に変えても。</p>
保科委員	落ちているのではなく、超過達成しました。
大矢委員	<p>わかりました。了解です。じゃあ、ちょっと、ここを4に変えます。</p> <p>それから、お濠についてはさっき言ったように区の川なので、これ、オリンピックもあるので早めに浄化するという話は、須田部長も言ったように、ここはほかに働きかけていくしかないということなので、積極的に今後の環境省とか東京都の下水道局かなんかに働きかけていくしかないのかなと。あと、先ほど説明があったように、いろんなビルでかなり水を一旦引き込んで浄化しているということがあるから、多分再開発</p>

	<p>されるたびに、お濠の周りでビルができるたびにそれが要請されていくと、かなりお濠の緑化もさらに推進されるのかなと思います。</p> <p>今後の方針ですけど、ヒートアイランド現象も進行している現状において緑化を推進していくというのは非常に重要なので、これは、積極的に今後進めていく必要があると思うし、限られた土地ですね、千代田区の中で、いかに緑を捻出するかといえば、屋上緑化や壁面緑化を含めて、緑にできるところは可能な限りしていかざるを得ないのかなということでここも4という評価で、総合的には、「身近な緑を増やし、うるおいのあるまちをめざす」ということで、総合的に子どもから環境団体とか巻き込んだりとか、それからお濠なんかは今言ったように、区だけではできないような問題も含めて相互的に取り組むということでBということです。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>こちら皆様の評価のポイント、ご意見なども同じようになってしまいましたが、そのほかの委員の意見、ご報告を踏まえて、何かご質問やご意見がございましたらお願いしたいのですが。</p>
朝日分科会長	<p>朝日委員。</p> <p>今さらなんですけども、指標を緑被面積にしているのは、皇居を除いた上での緑被率ではなくて、緑被面積になっているのに理由があるんですって。</p>
保科委員	<p>緑被率で見ると、千代田区は非常に高い数字です。</p>
朝日分科会長	<p>あ、高くなっちゃうから。</p>
保科委員	<p>皇居も含めていますので、直近の数字はありませんが、もう2割は有に超えている数字が出てきます。</p>
朝日分科会長	<p>皇居を除いて100%にしてという考え方。</p>
保科委員	<p>そういう捉え方もできます。</p>
朝日分科会長	<p>面積のほうが適切と。わかりました。</p>
湯浅委員	<p>そのほか、ございますか。</p>
	<p>なければ、まとめのほうに入らせていただきます。</p>
	<p>それでは、分科会長、よろしく願いいたします。</p>
朝日分科会長	<p>はい。ご説明を受けて、点数は主な取組みと指標で高くなりまして、20、20で、今後の方針が18、合計が58のB評価ということになりました。</p> <p>ご議論のあった内容としては、主な取組みについては、おおむね順調で適切であるというご評価でした。それから指標については、主に私からですかね、濠について区ができることという観点からいうとどうかというのがあったんですが、指標としての必要性から適切であろうということになりました。苦情を受ける対象を成果として。</p> <p>指標自体の進捗に関しては、順調に進捗している。特に生態、区民参</p>

湯浅委員	<p>加型モニタリング調査のところで、生物多様性については大きく進捗しているということが出ました。</p> <p>今後の方針についてですが、連携というキーワードがここでも出まして、連携の取組みは進んでいるんだけど、ネットワークづくりなどをした後は、その成果・活動に関してのモニタリングが必要というご指摘がありました。それから、水辺空間の創出という観点から、それを表すものというのが指標としてはないので、そこをどういった姿にするのかということを考えていく必要があるだろうということ。あとは連携の中身についてですが、地域、それから子ども部などとの連携ですね、意識醸成をしていくための主体に働きかける連携、それから都、環境省、それから民間事業主体との連携、働きかけが必要というご指摘がございました。その辺りを強化して行ってほしいという議論でございました。</p> <p>以上となります。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、施策の目標7につきましての評価、終了とさせていただきます。</p>
------	---

(3) 施策の目標12

湯浅委員 保科委員	<p>それでは、引き続きまして評価の施策の目標12に入らせていただきます。</p> <p>こちらにつきましてもご質問がございますので、所管部長の環境まちづくり部長よりご説明をお願いいたします。</p> <p>はい。では12番の「地球に優しい環境づくりを進めます」です。</p> <p>これについては、主な取組みと指標でおのこの1個ずつご質問をいただいております。まず1つは、主な取組みの主要施策の成果98ページ、99ページにおいて、執行率があまり高くない。特に中小テナントビル省エネ改修工事助成事業の理由はどのように分析されているんでしょうかということですか。</p> <p>この中小テナントビル省エネ改修助成、これは東京都の事業です。東京都が基金をつくって、環境整備公社に、たしか50億だと思いましたが、つくって、27年までの事業ということで実施した事業です。</p> <p>千代田区は、区内から排出されるCO₂約200万トンあるわけですが、そのほとんどが事業系です。大規模な事業所につきましては、これは事業所の責務でお願いをしております。ターゲットとしては中小テナントビルを重点にやりたいということで、区独自で300万円の上乗せをさせていただきます。申請が26年度に4件、27年度で17件、合わせて21件あったわけですが、実はこの21件という数字は東京23区の中でも断トツです。これに対して上限300万という形の補助を出させていただきましたので、結果としてはこういう形になってはいますが、当初は、全体の3</p>
------------------	---

朝日分科会長 保科委員	割ぐらひは千代田区に持ってきたいなという意気込みで始めた事業です。予算と決算でずれがあるのは、申請と工事にタイムラグがあり、工事完了後に補助をするというシステムになっていますので、もし27年の主要施策をご覧だとすると、27年のほうはかなり小さな数字になっているかと思ひます。
	わかりました。
	指標についてもう1つご質問がありました。CO ₂ 削減に関してカーボンオフセットやクレジットの活用については今後どの程度推進すべき、あるいは推進できる展望をお持ちでしょうかということで、今現在、カーボンオフセットについては、岐阜県の高山市と間伐材に関して協定を結んでオフセットをさせていただいています。過去には単発的に100万とか200万というレベルですが、いわゆる証書を買ったこともありましたが、今現在は行っておりません。
	来年、平成30年度から5カ年計画で、地域推進計画の第4次の事務事業編を改定しようということで今取り組んでいるわけですが、ご案内のとおり、実は千代田区は、エネルギーを毎日大量に消費をしているわけですがけれども、そのエネルギーの根元はどこかということ、実はほとんどが地方に依存しているということで、地方との連携とか共生とかいう切り口で、千代田区で当然できないことですから、地方に貢献させていただくようなことでオフセットもしくはクレジットができないか施策を組み立てているところです。今現在まだ具体化しているものはないんですけれども、今後、推進をしていきたいと思っています。
	ただ、具体的にオフセットするにしても、いわゆる例えば地方の太陽光とか風力とか、自然エネルギーを導入するにしても、いわゆる送電網の問題だとか、あと電力の周波数50ヘルツ、60ヘルツ帯の問題とか、もろもろ課題がありまして、うまく事業化できるかどうかというのは、まだ課題は残っていますが、検討課題だというふうに考えております。
	私のほうからは以上です。
湯浅委員	ただいまのご説明につきまして、そのほかの事項につきましてご質問などがあればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。
	はい。鈴木委員。
鈴木委員	エコセンターというのは、もう建築は始まっていらっしゃるんですか。どういう……
保科委員	これは今現在止まっています。
鈴木委員	そうなんですか。これはどういう目的で。
保科委員	もともとの目的は、これもご案内かと思ひますが、今いろいろ技術革新も進んでいまして、国のエネルギー基本計画の中でネット・ゼロ・エネルギー・ビル、ZEBというのが位置付けられています。エコセンターをZEBのモデルビルにしようというのが基本的なコンセプトです。千代田区内約1万2,000棟の建物があるわけですが、ZEBの建物は1

	<p>棟ありません。まず、区が、公共がリーダーシップをとろうということで地域推進計画2015の中に位置付けて、ZEBビルそのものをエコセンターというコンセプトで出したんですが、議論が錯綜してしまい、ZEBよりもエコセンターの中身の話が議会で議論になってしまいました、エコセンターの中身はいわゆる地域の活動拠点だとか、リサイクルの拠点だとか。ただ、我々のコンセプトはそうではなくて、建物そのもの、公共施設をZEBでつくっていいこうというものです。</p> <p>その後、国のほうもいろいろ話が進んで、いわゆるネット・ゼロ・エネルギー、フルZEB以外にも、ZEBレディだとかニアリーZEBだとか、50%削減になることですね、いろいろ新しい考え方ができましたので、それに向けてちょっと再構築をしている状況です。ですから、将来的な方向性としては、少なくとも公共施設に関してはニアリーZEB、もしくはZEBレディ、ZEBレディは50%ですけども、ぐらいなところはやっていかなきゃいけないなと思っています。</p> <p>ちなみに、今、区で去年の10月から環境の事前協議制度ということで、計画段階からいろいろ計画書をいただいているんですが、もう既に40%を超えるような案件が出ています。公共施設もやらせていただきたいなと思っています。</p>
鈴木委員	<p>区としては、議会の理解を得るべく、建物をつくった後の中身についても今検討されているという形なんですね。</p>
保科委員	<p>そうです。</p>
鈴木委員	<p>わかりました。</p>
保科委員	<p>建設場所も含めて、再協議中という形になっています。</p>
鈴木委員	<p>区有地というか、今、場所なんかは確保されていたわけですよ、もう。</p>
保科委員	<p>一応当初想定した場所があったんですけども、再度区のほうの全体を所管するところで調査がありましたので、一応そこは設置場所も含めて今要望を出しているという状況です。</p>
鈴木委員	<p>はい。わかりました。</p>
松井委員	<p>よろしいですか。</p>
湯浅委員	<p>松井委員。</p>
松井委員	<p>先ほどの主要施策の成果の中の続きですが、28年度決算で見るとよろしいのでしょうか。</p>
保科委員	<p>28年決算はまだ出ていないですね。27だと思えますね。</p>
松井委員	<p>はい。これは先ほどのご説明ですと、中小テナントビルはさらに上がってくる、執行率が上がるということでしたが、今現在の見込みでは、どれぐらいになりそうでしょうか。6.7%が、90%、100%近くになるというのはなかなか想定しがたいと思います</p>
保科委員	<p>そこまでは行かないですね。</p>
松井委員	<p>というふうに思います。</p>

保科委員	<p>これもいろいろありまして、当初は東京都の補助の上乗せという形で想定していたんですが、東京都と協議をしていく中で、都の補助対象の上乗せをやってもらっては困るという話をいただきまして。都の補助対象にならない部分について300万円出しています。ですから、マックスでやったとしても21件しかありませんので、6,300万しか出ないことになります。</p>
松井委員	<p>3,000万ぐらいは。</p>
保科委員	<p>300万しかありません、区は。</p>
松井委員	<p>執行残になってします。</p>
保科委員	<p>はい。</p>
松井委員	<p>ほかもどうでしょうか。6.7%が特に目につきますが、温暖化推進行動の促進や低炭素化推進というのも1,000万規模と2,000万規模ですけど、大体70から50%台、ヒートアイランドも1,000万ぐらいの予算規模に対して600万ぐらいで50%ぐらいです。これもまだまだ執行が伸びているのでしょうか</p>
保科委員	<p>実は、お手元の資料は今27年決算ということなんですが、ちょうど26年、27年と大きな施策を見直しているときでして、この中小テナントビルをやったときに、今の省エネ改修等々は一時休止していた時期です。要するに、これまではどちらかというと、例えばLED電球に対して補助をしたりとか、家庭用のマンションの給湯器をかえると補助するとか、そういうことも細かなミクロ的な補助でした。そうではなくて、やはり面的対策とか、あとは千代田の場合とはにかく中小のビルをやらなきゃいけないということで、ちょうど地域推進計画2015というものをつくったときに、施策の再構築をし、動き出したのが今年の10月からの環境の事前協議制度という制度で、これは建築確認申請をする前に、区に届け出をしてくださいというものです。そこで区の担当者のほうといろいろネゴシエーションし、35%以上——これは平成25年の省エネ基準ですが——よりも35%以上省エネしていただいたら最高1,000万まで補助金を出しましょうという形にシフトしてきています。</p>
松井委員	<p>ちなみに、今年の10月から始めて今年の6月までで、実は千代田区の区の事務事業で約1万1,000トンから2,000トンぐらいCO₂を排出しているんですが、事前協議だけで去年の10月から6月までだから9カ月間で今5,000トン削減出来ています。事前協議の効果は大きいと思っております。</p>
松井委員	<p>なるほど。</p>
保科委員	<p>それはお金がかかっていないので、事実上。</p>
松井委員	<p>むしろすごく評価できる話ですね。</p>
保科委員	<p>はい。ただ、今回、ここには事前協議の話は一切入っていないです、ここのシートの中には。</p>
松井委員	<p>27年度までのものに対して評価をすればよろしいのですかね。難しい</p>

保科委員	ですね。
松井委員	そうですね。今現在あるのは27年の数値しか出ていませんので、一部28年の打ち水回数が出ていますが。
保科委員	では、ここの予算の執行が低いというのはある意味見込み済みだったというわけですか。
松井委員	そうですね。当然そんなに行かないだろうという想定です。
保科委員	そうであれば、予算をつけなければよいのにはと思いますが。
松井委員	お手元の資料はわからないんですが、省エネ、テナントビルのこの助成制度をやったときは、26年は、例えば助成制度はこのときは1年間中止したはずなんです、当初は7,000万円ぐらいの歳出を行ったと思っています。
松井委員	施策の成果では、9,400万ぐらいに乗せています。なるほど。わかりました。主な取組みの成果が一定程度あるということで理解しました。
保科委員	もう一点だけ。打ち水ですが、やはり打ち水は事業としては重要なのでしょうか。指標に上げるほどのことなのかなと思います。
松井委員	そうです。
保科委員	あと、これは、行政側が主導する打ち水であって、社会的に例えば民間の企業さんたちが自分たちでやり始めましたというアウトカムではない。つまり、イベントですよ、施策の指標に適するのかなと思います。打ち水は、どう捉えればよいのでしょうか。
松井委員	当初は、平成16年からと記憶していますが、千代田区の庁舎の前でやっていたんですが、平成24年からは、全区的に広げてお願いをしまして、例えば今週28日は、丸の内の行幸通りで打ち水を実施します。
保科委員	はい。
松井委員	環境大臣や東京都知事、区長も出ますけども、大丸有エリアのエリアマネジメントが主催して大々的にやります。その地域で今動きが出ています。8月1日以降は庁舎前で初めて区内一斉に打ち水ということで8月いっぱいやっていただくということで、各地域ごとをお願いをしています。
保科委員	最初は確かに役所主導だったんですが、今もう区内各所でいろんな形で行われています。イベント的な要素が確かに強いですが、3年後の東京オリンピックがちょうど夏のオリンピックということで、当然暑さ対策が課題になります。日本古来からの、先人の知恵ですので、身近なエコな活動ということで、誰でもできる打ち水を実施しています。
松井委員	東京の場合は濁水という問題もあるので、水をどう使うかも大切ですね。
保科委員	一応、中水を使わせていただいていますので、役所に関しては。
松井委員	なるほど。
保科委員	今後、町会等についても、例えば中水を入れた——逆にトラックを出すともたそこでガソリン使ってしまう訳ですが、中水利用を促進したり

<p>松井委員 湯浅委員</p>	<p>とかいうことはやらせていただきたいなと思っています。 わかりました。 はい。よろしいでしょうか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>鈴木委員。 ちょっと1つだけ。指標のところなんですけども、エネルギーの自立度なんですけど、36年度のこれ4.3というふうになっておりまして、これ、要するに災害時……</p>
<p>保科委員 鈴木委員</p>	<p>そうですね。 にも自立できるということなんですけども、1桁ですと、これを達成したとしても災害時に……</p>
<p>保科委員 鈴木委員</p>	<p>厳しいですね。 賄える量なのかどうなのかというのをちょっとお伺いできれば思っ て。</p>
<p>保科委員</p>	<p>はい。正直言って、極めて厳しいと思います。先ほど申し上げたように、エネルギーのほとんどは外部に依存していますので、BCPの観点も含めてどういう形をとっていったらいいのかというのは、実は大きな課題です。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>今、区有施設等々にも太陽光パネルを設置したりしていますけれども、ご案内のとおり、太陽光は日中はいいかもしれませんが、夜間は使えません。電力という意味ではコジェネ等は1つ有効な手段なんですけど、実はコジェネも天然ガス、中圧ガスなんです。中圧ガスは切れないということ言われていますけれども、実際、震度6、震度7クラスが来たらどうなるかわからないということもあります。 ですから、今頼りになるのは、いわゆる自家発電、一応この庁舎もそうですが、72時間分は一応燃料がありますけれども、じゃあ3日分で足りるのかというのは、ちょっと大きな課題ですね。</p>
<p>保科委員</p>	<p>この4.3というのは、公共施設も民間も全て含めてということで、区内の……</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>そうですね。いわゆるコジェネ等々を含めた形での、いわゆる自立分散型電源を所有しているという概念です。 公共施設に限れば、もうちょっとこれは高くなってくるのでしょうかね。</p>
<p>保科委員 鈴木委員 保科委員</p>	<p>区の施設も全て自家発があるわけじゃありませんので。 そうなんです。わかりました。 はい。最近つくっている施設については、基本的には72時間分賄えるだけの発電機、燃料等々は備えております。</p>
<p>鈴木委員 保科委員 湯浅委員</p>	<p>わかりました。なかなか厳しいんですね。 厳しい状況です。 そのほかはよろしいでしょうか。 では、また委員の皆様より評価のご報告をお願いしたいと思います。</p>

朝日分科会長	<p>朝日委員よろしいでしょうか。</p> <p>ポイントは4、4、3です。主な取組みについては、業務部門の比重が大きいという特徴ですとか、昼間区民の協力が必要であるといった地域特性がありますので、その観点からいうと、事前協議に取り組んでいる点が今お話を聞いて、特に効果が大きいということです。</p> <p>エコセンター整備というのは、最初意図がわからなかった面もあるんですけど、ゼロエネルギー・ビルディングの象徴的な意味合いが強かったということで、ゼロエネルギー・ビルディングの象徴的な意味はあると思うんですけど、その後の継続的な効果ということを見ると、やはりエコセンターの中身の議論というのが大事なのかなという印象を持ちました。</p> <p>それからあと質問、ご指摘、ご質問が松井先生のほうからあったとおり、緑化とか省エネ改修などの充実した助成制度がある一方で、利用率がやっぱり低調なのが私も気になりました。ご説明を聞いていたら、もともとちょっと欲張って目標が高かったということもあり、それが利用率が高いということにならなかった理由ではないかと思います。その観点からは事前協議などにシフトしている点はいい方向性と思いました。</p> <p>指標に関しては、いずれも進捗自体は順調なのかなと思います。</p> <p>今後の方針についてですが、繰り返しになりますが、助成制度についての効果を見直す必要があると思ったのですが、政策の方針を一旦シフトされているということによいのではないかと。</p> <p>あと、カーボンオフセットとクレジットなどの話ですが、CO₂の削減量ですとか、さまざまなエネルギーシステムという点に関しては、最終目標に対しての進捗が地域特性上心もとない部分もあるんじゃないかなと。控えめに4.3%という数字を設定されていたりするかもしれないんですが。大都市の特性なので、現実的にはカーボンオフセットとクレジット、また、他地域との連携ということをもっと積極的に考えるという現実的な調整を進める必要があるのではないかなと思いました。</p> <p>それから、あとエネルギーの観点だけではなくて、いろんな意味でのほかの地域とのエネルギー依存ということを通じての交流みたいなことも考えられるかと思います。子どもの体力の課題で小学生の交流事業もそれに絡めてやられているということもお聞きしておりますので、そういった大都市ならではのデメリット・メリットの部分了他地域との連携で補完していくという方向性を重視していくべきではないかなと感じました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p>
鈴木委員	<p>では、鈴木委員、お願いいたします。</p> <p>主な取組みですけども、千代田区では早くから地球温暖化対策条例を制定されたり、また平成21年度には環境モデル都市に選定されている</p>

と、なかなかほかの区もチャレンジしてできなかったところもあると聞いていますので、そういう中で非常に他区市町村に見られないような総合的な取組みをされていらっしゃるなというふうに感じております。

特にCO₂の削減の部分では、建築物環境計画書の事前協議とか、こういう取組みで成果を出されているということで高く評価していますが、やっぱり一方で、さっきエコセンターのお話もありましたけれども、シンボルとしての意味はわかりますが、やはり議会もおっしゃるように、実際の効果とといいますか、利用方法について疑義が出てくるのもやむを得ないかなと。ほかの施設では何でそれができないんだというような疑問も出てくる面があります。

打ち水については、これもいろいろと意見があるかもしれませんが、水道水をできるだけ使わず、あとアスファルトにあまりまいても意味がないとか、そういうところもちゃんと押さえた上でやる分には、そんな悪い効果は少なくともないと思いますので、積極的にやっていただいているのかなと思いました。

で、指標については、ここの現状の指標はそれぞれ改善に向かっているので結構かと思いますが、先ほども申し上げましたように、エネルギーの自立度については、ちょっと何というか焼け石に水というところなんですけれども、何もしないよりはもちろんいいんですけれども、この指標の意味が一体どれほど実際あるのかというところに若干の疑問を持った次第です。

今後の方針ですけれども、CO₂を削減していく上では業務部門の協力・理解が必要不可欠になってくると思いますけれども、じゃあそのもう一方、働きかけをしていく上でのなかなか有効な手段が見えないかなと思います。これまでどおりの地道な取組みを重ねていくということになるかもしれませんが、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

以上でございます。

はい。ありがとうございます。

それでは、松井委員、お願いいたします。

はい。私は3、4、3でしたが、主な取組みは、お話を伺いまして4と変更させていただきます。

主な取組みは、予めいただいている資料から拝見する限りでは、事業展開はされていますが、実際の予算の執行率が低いところがありました。これで3という評価をしていました。しかし、年度途中で採用された事前協議制の導入という政策もある意味転換が当初から予定されていたということであれば、その成果も含めて一定の評価をしたいと思えます。特に、結果が出ていますので、4という評価に改めさせていただきます。

指標もいずれも一定程度の達成があり、着実な達成に近づいております。大変評価ができるところであります。また、打ち水にこだわるわけ

湯浅委員

松井委員

保科委員 松井委員	<p>ではありませんが、区主体による運営ということなのかなと思いつながら、最初は評価させていただきました。しかし、今回お話を伺いますと、地域での広がりもかなり根づきつつあるようです。今後は、これらの地域の広がり部分を捉えられるような指標などもあるとよろしいのかなというふうに思います。</p> <p>今後の方針には、これは3のままです。確かに事前協議制については、これ、新築の建築物については当然適用がされるんですけども、むしろ問題になるのは現状の建物ではないかと思えます。</p> <p>そうです、既築です。</p> <p>新築は対象とされるけど、それでは、現存の建物はどうするんだという話になってくる。これは先ほどの政策転換のもとに戻ってくると思うんですけども、実はマイクロな施策をもう一回見直すとか、誘導策等を検討し直さないといけないという課題がもう一度出てくるのかなと思えます。この点は、今後の方針として検討していただくというのがよろしいのかなと思いました。少し厳しい評価ですが、3という評価にさせていただきました。</p>
湯浅委員 須田委員	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、須田委員、お願いいたします。</p> <p>評価は変わりません、4、3、4ということで。</p> <p>取組みのところでは、民間事業者とか関係団体を束ねて効果を上げていくところが網羅されているので評価はしています。今ご指摘があったマンションとか事業所の建て替え時にどうするかというような、現状あるものをどうするかとか、道路修復の対策や保水性だとか遮熱性だとかということも含めて、あらゆる面で環境配慮というものが市内だけではなく、事業者、教育も含めてやっていく必要があると思えます。</p> <p>それから、補助制度なども特徴づけないと、先ほどのご指摘のとおり、予算は計上したけども実際に使われないというようなことがあって、再生可能とか未利用エネルギーなどを使っているところには特出した助成制度みたいなものができれば良いかなと思っています。</p> <p>指標のところですが、私も松井委員同様、打ち水の回数を指標にあげているのはいかがなものかというのがあって、この指標というのは、CO₂のエネルギー消費量だとか、電気、エネルギーの自立性だとか、政策的な部分があるので。これはイベント的な部分で回数を増やせばよいところもあって、例えば環境教育の参加者の指標が良いのかなと感じております。</p> <p>それから、このめざすべき10年後の姿の1990年比30%というのは、いろいろなことをやっていかないと、達成に向けては難しい数値だと思っておりますので、先ほどの朝日委員のご指摘にもありました、地方との連携などを組み合わせて、次に出てくるごみの問題を含めてやっていか</p>

湯浅委員	<p>なければいけないと思います。</p> <p>今後の方針としては、区民の重要度は高いということで、家庭環境教育も含めて、区民の関心を高めていく必要があると思っております。</p>
大矢委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、大矢委員、お願いいたします。</p> <p>はい。これもさっきと同じかもしれないんで確認しますが、打ち水の現状値は目標値を上回っちゃっているんで、31年度よりも大きな数ということでもいい。</p>
保科委員 大矢委員	<p>そうです。</p> <p>わかりました。じゃあ、ここも、私のほう、指標を4に変えてください。ここも、現状値のところ31年が下がっちゃうので、ちょっと変な指標だなと思ったんで、そこがあれだったんで。</p>
保科委員 大矢委員	<p>あと打ち水、大分話が出ていたんですけど、アスファルト、第1回打ち水大作戦って、当時「打ち水大作戦」という名前で全国一斉に、日付と時刻が指定されて一斉に全国でやるんですけど、打ち水する前に、気温、地面から何十センチとかのところで気温をはかって、それから打ち水した後でもう一回はかると、あ、何度下がっていますねというようなことで全国一斉に調査している感じで、一応何度下がったとかというのまで、とって報告しているはずなんです。</p>
保科委員 大矢委員	<p>あります。</p> <p>で、もともと今はもう防犯上あり得ないけど、昔で言えば、また昔の話ですけど、神田なんか普通に表があいていて、すだれがあって裏もあいていて、つまり風通しが、裏も表もあいていて、開けっ放しになっていて、どこのうちも打ち水をやるから、冷たい風が入ってくるという状況なんで、今はもう、そういう、現実には打ち水なんかやったって、家閉めてクーラーですから、そこの家の中での涼しさを実際にやるということはないんでしょうけど、昔は日よけなんかをみんな出して、こう、打ち水をやっていたわけなんですけど。だから、どっちかといえば、確かにこれは啓発事業になっているけど、啓発事業は悪いものじゃないし、千代田区なんかでは打ち水というのは、そういうものはあまり、家の中を涼しくするというのはあれですけど、地方なんかだと、今でも効果があるのかなと、ちょっと余談ですけど思います。</p>
保科委員 大矢委員	<p>それから、主な取組みに関しては、省エネルギー対策としての建築環境計画書の制度の改定とかグリーンストック作戦とか、再生可能エネルギーの調査、またヒートアイランド対策などいろいろ取り組んでいるということで評価しますし、打ち水も啓発に努めているということで問題ないかなと思います。</p>
保科委員 大矢委員	<p>指標は先ほど言いましたように、非常に回数が多かったということで、4に変えていただきます。CO₂の排出量を1990年度比30%というのは、これはもう、厳しい目標だというのは誰でもわかっていますし、</p>

また現在、再開発やその他ビルのあれで床面積がどんどん増えていますし、大手町だって連鎖的なあれをやって、今度日本一高いビルだってまたできるということを考えれば、当然床面積がどんどんどんどん増えている中でCO₂を減らすんですと言ったら、かなりの、それは、ものを抱えている。唯一、今、原発が止まっていますから、この原発が全部フル稼働していくと一気にCO₂の量が下がるというのは、そこについては特に触れてはいませんが、そういうエネルギーのCO₂の使用量に関しては、そういう大きな、国レベルでの政策転換をどうするのかというのにも影響しますし、区が実際に使っているパーセンテージも、今言ったように原発の稼働だけで相当これが動いちゃうというのもあるんで、そういう政策に大分左右されるかなと思いますけど、ただ、厳しい目標に向かっては努力しているのかなと思います。

今後の方針については、CO₂の大半を占める事業者に対して、現状の取組みだけではなくて、目標達成は厳しいですけど、自治体としてやるべきこと、一自治体としてやるべきことはしっかりやっているなと思います。

総合的に考えると、千代田区というのは環境モデル都市で、全国でそんなに数多くない中の唯一の、東京では唯一の千代田区が環境モデル都市に選ばれているということを考えると、これは他の自治体の模範になることが求められていますので、CO₂の排出量の目標というのは非常に厳しいんですけども、これを、そこに向かってやっているんだよというのを環境モデル都市として千代田区がやっていく。地球に優しい環境づくりという大きな命題に対しては、区として足元から地道な努力を積み重ねていくしかないんだなと思いますから、それについては地道にやっているということで評価できるかなと思います。総合評価もBでいいと思います。

以上です。

湯浅委員

はい。ありがとうございます。こちらの施策の目標12につきましても、皆様のご意見は良い内容になってございます。

先ほどの各委員のご意見、ご質問などを踏まえて何かございましたらお願いしたいんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

湯浅委員

それでは、こちらの施策の目標12の評価のまとめに入らせていただきます。

それでは、分科会長、よろしくお願いいたします。

朝日分科会長

はい。点数としましては、主な取組みが20、指標が18、今後の方針が17で、合計55で、こちらもB評価となりました。

議論された点としましては、主な取組みについては、ベースとして、環境モデル都市として先駆的というレベルの高い状態にはある中で、主な取組みの評価もベースとしては高いものになりますが、個々の議論と

<p>湯浅委員</p>	<p>して、エコセンターについてはやはり象徴としての意味だけではなく中身の議論をやっていくべきだろうというものがありませんでした。それから、助成制度の予算の執行率、制度の利用率の低さに関して、やはり政策の考え方の転換があったところは評価できると。もしくは、そういった利用率が低いところに対してのプロセスの改善というものがあつた程度必要であろうという観点がありました。</p> <p>あと、打ち水についての議論が指標ともあわせて出ましたけれども、効果という点もある中で、やはりイベントとして象徴的な意味合いがとても強い、そこをどう評価するかというところで分かれてきました。おおむね啓発とか地域の意識の向上という観点での評価はできるというところになりました。ただ、成果としての指標となると、そういった限定条件付きというか、あくまで意識向上という観点での成果の評価となるのではないかとこのところですね。</p> <p>指標に関しては、もともとCO₂については厳しい目標であると。あと、エネルギーの自立度についても、なかなか難しい中で進捗は評価できるというところでもあります。</p> <p>それから、今後の方針につきましては、先ほどの予算の執行率の話にもありましたけれども、事前協議などにシフトしているところは評価できるけれども、個々には、建て替え時にどうするのかという問題が指摘されました。また厳しい目標に対して他地域との連携が必要ではないかなど、難しい点に関しての取組みというのは、今後とも強化して行ってほしいという評価となりました。</p> <p>以上です。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p>
-------------	--

(4) 施策の目標13

<p>湯浅委員</p> <p>保科委員</p>	<p>それでは、次に、施策の目標13の評価に入らせていただきます。</p> <p>こちらもお質問がございますので、所管部長の環境まちづくり部長よりご説明のほうをよろしくお願ひいたします。</p> <p>はい。では、最後の施策の目標13です。「資源循環型都市をめざします」です。</p> <p>この項目は指標で1点、ご質問をいただきました。中身は、1人1日辺りのごみと資源の総排出量の指標において、昼間区民に関する情報を得ることは可能でしょうかというご質問です。</p> <p>これについては、今、昼間区民、昼間人口約85万人と言われていますが、その一人一人のごみの量というのは、出ません。</p> <p>今私どもで把握しているのは、いわゆる事業系のごみという形で、内訳としては、区で収集している事業系ごみ。あとは、いわゆる持ち込みごみで、事業者さんが直接清掃工場に持ち込むごみです。そこは把握で</p>
-------------------------	---

湯浅委員	<p>きております。あと個々には、各事業者さんがマニフェストというものを 出しますので、マニフェストを見れば事業所単位での数はつかめます が、じゃあ昼間区民1人あたり幾ら出しているかというのは、数として は把握できていないという状況です。</p> <p>ちなみに、千代田区では、事業系が全体のごみ量の90%で、家庭系は 1割です。今、人口6万人で、かなり増えましたけれども、それでも1 割に満たない水準です。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>ただいまのご説明及びその他の事項につきまして、ご質問などがござ いましたらお願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>鈴木委員。</p> <p>それでは、今の質問と関連しますので、指標の達成分析のところです ね。1日1人当たりのごみと資源。今後の課題、取組みで1日1人当た りのごみの的確な把握が課題となっていることなんですけれども、現 状では、今、事業系の把握のことはわかりましたけれども、一人当た りのごみの排出量というのはどうやって計算されているのですか。</p>
保科委員	<p>これは昼間人口、夜間人口を足した数字で、単純に全体を割っている だけです。</p>
鈴木委員	<p>なるほど。</p>
保科委員	<p>区民だけですと、350とか360グラムぐらいになると思います。家庭系 だけで。</p>
鈴木委員	<p>家庭系だけだと。ほう。</p>
保科委員	<p>あと、今度は主な取組みの排出指導のところなんですけれども、不適 切に排出する事業者に対しては訪問指導などやっていらっしゃると。何 か、どんな不適切事例があるのか。</p> <p>不適切というよりか、おおむね区内の事業者は約3万社あるんです が、そのうち従業員100名以上ぐらいのところというところ1,000社ぐ らいですけれども、5年ぐらいのサイクルで回っています。年間大体100 から200社ぐらいで、担当者のほうが回って指導しているという状況 です。</p> <p>事業系ごみが全体の約9割ということですので、特に今我々が課題と して考えているのは、やはり事業系ごみを減らさなきゃいけないとい うことです。ご案内かと思いますが、ごみの収集、運搬、処理、処分につ いては、平成12年に東京都から区に移管をされて、当時は各区に清掃工 場をつくり、自区内処理の原則ということだったんですが、千代田区は 清掃工場をつくらないという判断をしまして、今、千代田区のごみは、 家庭系ごみは港清掃もしくは中央清掃、あと事業系ごみは江東清掃も含 めて搬入をされているという状況にありますので、とにかく清掃工場を 持たない区として、ごみは減らそうと。</p> <p>今、特に力を入れているのは、家庭系については最近大規模なマンシ ョンが増えていますので、実は家庭系についてはリサイクル率が20%台</p>

	<p>ですね。リサイクル率をもっと上げようという取組みが1つ。</p> <p>あと、事業系については、リサイクル率はもう、実は7割近くまで上がっています。ですので、やはり事業所については、特に生ごみ、要するに飲食店で出されているごみも含めて、食品ロスの問題だとか、コンビニも、賞味期限が切れるとパックごと捨て大きな食品ロスになっているので、その辺を含めた形での取組みを、強化したいと思って。</p> <p>先ほどのエネルギーもそうなんですが、ごみ量も確実に減ってはいるんですけども、さらに取組みを強化をさせていただきたいと思っております。</p>
湯浅委員	<p>はい。そのほかご質問はございますか。</p>
朝日分科会長	<p>朝日委員。</p> <p>このごみの量は、やっぱり景気だとか、経済活動、開発とか、あと来街者の動向などに影響されると思いますが、そういう外部的な要因がどの程度この目標に対して影響を及ぼすものと考えられるのかということと、あとそれに対する有効なアプローチ、つまりぶれといいますか、予想外になることに対する観点はあるのでしょうか。</p>
保科委員	<p>今のところ、人口も今6万人を超えましたけれども、特に、人口が増えたから、あと経済活動が活発化したからということで、ごみ量そのものが増えるということはありません。</p>
朝日分科会長	<p>それほどは、ないんですね。</p>
保科委員	<p>はい、全般としては減少トレンドです。ただ、減少の幅が多少事業活動が活発化したこと、もしくは人口が増えたことによって、幅が圧縮されたという傾向はあるかもしれません。</p>
朝日分科会長	<p>ひっくり返るほどではないんですね。</p>
保科委員	<p>はい。</p>
朝日分科会長	<p>わかりました。</p>
保科委員	<p>ですので、その減少トレンドでありますので、今、パブコメが終わりましたが、第5次の一般廃棄物の処理基本計画をつくってはいすけども、従前のリサイクル率とかごみの量の指標のほかに、特に区民の皆さん方は先ほどの食品ロスの観点も含めて、1日何グラム減らしてくださいという普及啓発を今後していきたいと思っております。</p>
湯浅委員	<p>鈴木委員。</p>
鈴木委員	<p>はい。ほかの市町村ではしばしば、ごみの有料化とか、指定ごみ袋の導入とかが進んでいるんですけども、23区はやってないことは承知しているんですけども、それは、やらない理由というのが、どういうところにあるのでしょうか。</p>
保科委員	<p>特に、やらない理由というのは、ありませんが。</p>
鈴木委員	<p>導入すると、ごみの減量につながるのは確かなんだろうと思うんですけどもね。</p>
保科委員	<p>古くからの課題ですので、有料化というのは検討課題にはなっていま</p>

鈴木委員	<p>す。検討課題にはなっていますが、今現在、いつからやるとか、そういう具体的なスケジュールが視野に入っている状況ではないです。</p> <p>なるほど。多摩地区のほうでは、非常に高い料金のごみ袋に上乗せされていて。向こうは財政的なやっぱり問題もあると思うんですけどもね。</p>
保科委員	<p>ごみの量そのものは、千代田区に限らず東京23区全体としても減っています。ただコスト的な問題だけを言ってしまうと、実は大幅な持ち出しになっています。収集コストもばかにならない金額になっていますし、清掃工場そのものも維持するのはやはり莫大なコストがかかっているというのが現状です。ですから、多分有料化したとしても全てのコストを賄うことは多分不可能だろうと思われま。</p>
鈴木委員	<p>やっぱり港区、中央区、江東区の清掃工場を使うに当たっては、何とか、引き取り料金といいますか、何かそれをお支払いしているということですか。</p>
保科委員	<p>はい。東京23区は、清掃工場は全て清掃一部事務組合がやっています、各区で分担金を払っていますけれども、それ以外の状況はなかったんですが、数年前から負担の公平ということで、清掃工場のない区が、ある区に一定割合の金額を払うような仕組みがありまして、複雑な算定式なんですけど、今現在、千代田区で年間3,000万くらい、負担の公平という形でお金を拠出しているという状況です。</p>
鈴木委員	<p>わかりました。</p>
湯浅委員	<p>はい。松井委員。</p>
松井委員	<p>指標のお話ですが、下の2つでごみの資源率の話ですが、区民の方は、純粹に人のレベルでは、区として施策として、例えば「分けちよ！」というアプリをつくられて、個人行動や習慣を変えていくということはありますが、千代田区さんの特質を考えた場合、やっぱり事業者の排出が圧倒的に多いように思います。その行動を現在の事業では変えていくのはなかなか難しいのではないのでしょうか。</p>
保科委員	<p>そうです。</p>
松井委員	<p>事業者の資源化を考えたときに、実は施策や事業としてどこまで重点化されているのかが今一つよく見えないように思いました。取組みとして具体的にこういったものがあるんだということがあれば教えていただければと思います。</p> <p>もう一つは、指標の達成度です。これ今のスピードから言いますと、多分31年度の目標に届くのかなとの懸念もあります。残された期間を考えますと、あと2年くらいです。10%くらい両方とも上げていくというのは普通に考えるとこれなかなか難しいのかなと思いました。その辺に関してどのようにお考えですか。</p>
保科委員	<p>そうです。まさに大きな課題になっているところで、まず事業所に関しては、今もやっているんですが、エコオフィス町内会のように仕分け</p>

<p>松井委員 保科委員</p>	<p>するボックスをお貸しして、もっと徹底したリサイクル率を向上してくださいというお話はさせていただいています。</p> <p>あと、これも一時問題になって、さらに強化しなければならないのですが、我々区の職員も弁当を食べると、いわゆる弁当のカラーが出ます。コンビニ弁当のプラスチックの弁当なんて言い方していますが、きれいにしていればリサイクルできますが、ご飯だとか有機物がついていると、できなくなります。</p>
<p>松井委員 保科委員</p>	<p>なるほど。</p> <p>ですから、我々も昼間区民の一人として、きれいに残さず食べるということもあります。</p> <p>洗うという。</p> <p>はい。いわゆる燃やすごみではなくて資源のほうに入れていただければ、それが清掃工場に持ち込まれることはないんで、そういう取組みをする。</p>
<p>松井委員 保科委員</p>	<p>家庭系については、家庭系は事業系と違って紙ごみがあまり多くないので食品ロスの問題も含めて、特に力を入れたいと思っているのは、最近、千代田区内にマンションが増えております。特に大規模なマンションです。今一番大きいのは飯田橋にある505戸のマンションがありますけど、そういうマンションを中心に、有価物集団回収をマンションでやってもらえば報奨金をキロ6円出しています。そういう事業をもうちょっと広げて、特に大きなマンションを中心に、指導に入れられないかなということで、清掃事務所を中心に計画をしているところです。今85%、9割近くとも言われていますけど、区民の皆さんがマンション住まいということですので、大規模マンションを中心に指導強化をしたいと考えています。</p> <p>なるほど。わかりました。</p> <p>大体500戸ありますと、そこだけで住民が1,500人から2,000人近くおられます。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほかご質問ございますか。</p> <p>(「なし」の声あり)</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>なければ、評価の報告に入らせていただきたいと思います。</p> <p>朝日委員からお願いいたします。</p>
<p>朝日分科会長</p>	<p>はい。私は全て4で、評価の変更はないです。事業系の廃棄物が大半を占めるという地域特性なので、排出や資源化についての指導のアプローチというのは有効ですが、先ほど質問した減量に関して、昼間区民の動向というのがどうかなと思いました。一人一人というのがざっくり割り算をするこの指標の出し方でしか把握はできない、今のところできないということなので、わからない状況で有効なアプローチができないんじゃないかというふうに感じました。ただ、それほど全体の傾向として</p>

<p>湯浅委員</p>	<p>大きく外部の要因を受けるといふこともないといふようなことと、あと、意外と昼間区民の方のお弁当の話とか、割と何か地道な取組みが必要だといふご認識でなさっているといふことで、適切なのではないかと思ひます。</p> <p>指標についても、目標値に対しては厳しいかもしれないんですけども、一応進捗はしているといふことで、順調といふ評価です。</p> <p>それから、今後の方針について、2Rの部分に対する課題認識といふのは適切かと思ひますが、働きかけるターゲットが最初わかりにくいかなと思ひました。が、今のご説明で、家庭に関してもマンション住民へのインセンティブを設けることを強化できる見通しがあるといふことで、そちらを強化していただければといふふうに思ひました。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では、鈴木委員、お願いいたします。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>はい。主な取組み、3としていますが、修正して4にさせていただきたいと思ひます。訪問指導や表彰・顕彰制度を実施されたり、各種意識啓発などのさまざまな取組みをされていると。また、千代田区は中小企業さんあるいはマンション住民の多い中で、なかなかごみの減量化の周知といつても難しい状況の中でいろいろ工夫されているといふことで、4にしたいと思ひます。</p> <p>指標は3のままですが、これはやはり指標の現状の数値を見ると、やはり改善はしているんですけども、やはり小幅にとどまっいて、目標の達成にはなかなか困難ではないかといふところから3としたいと思ひます。</p> <p>今後の方針ですが、これは先ほどもちょっと申し上げたんですけども、他の市町村では、ごみの有料化も含めて排出者に適正な負担を求めるといふ施策を導入しております。これはやはり日本全体の最終処分場の容量が不足しているといふことを考えますと、コスト云々ではなくて、何としてもごみを減量化しないといけないと。その中でとるべき手段としてごみの有料化といふものがある以上、それをやっぱりもうちょっと積極的に検討してもいいのかなといふふうに考えまして、3といふことでさせていただきたいと思ひます。</p> <p>以上です。</p>
<p>湯浅委員</p> <p>松井委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、松井委員、お願いいたします。</p> <p>はい。4、3、3ですが、4、3、3のままです。</p> <p>取組みには、区民そして事業者に対して、非常に実質的、啓発的なものを含めて取り組まれているといふことに対して非常に評価ができます。そのため4にさせていただきました。</p> <p>指標は、当初からに比べますと増えていますけども、目標値の達成度を考</p>

	<p>えていくと、やや上り状況、増加状況が低い状況にあります。そのため、3とさせていただきます。今後の達成は進捗度に非常に疑問が残りますので、そこは懸念をしておりますということです。</p> <p>今後の方針は、これも先ほどご紹介いただいた有価物集団回収実施などの取組みは非常に興味深いように思いました。とはいえ、事業者の対策というのがやはりこの千代田区の場合は必要です。例えば千代田エコオフィス町内会、確かに取組みは興味深いと思いますが、加入はさらに進んでいるのかとか、加入をいかに進めていくのか、そして実際の行動につなげるのかということがむしろ今後の方針であって、場はつくられたようですので、実際にその効果を今後期待したいということもありまして、今後の方針は、まだ、厳しいようですが3とさせていただきます。</p> <p>以上になります。</p>
湯浅委員	はい。ありがとうございます。
須田委員	<p>それでは、須田委員、お願いいたします。</p> <p>評価のほうは4、3、4で、変わりません。</p> <p>主な取組みとしては、事業系ごみの減量というのを重点的にやっていくことで、評価します。あわせて、数字的には少ないとはいえ、家庭内のごみ、食品ロスの問題など、他部との連携を進めていくことが将来的にはごみを減らしていくという意味でも良いと思います。先ほどのオフィス町内会の活動などの取組みを進めていくことが、地道であるけれども必要なことです。</p>
	<p>指標のところでは3を入れた理由ですが、先ほどのいろいろご指摘があるところのエコ町内会の加入率だとか、マンションが事業、要するにごみを減量するための活動をしたことに対する評価だとかを加えていったほうがいいのかなど。指標の追加です。ちょっと物足りなさを感じたので3にしました。</p> <p>今後の方針としては、区民アンケートの満足度が50%を超えているというのはなかなか達成できることじゃないので、非常に評価をしております。ただ、その重要性というのがなかなか日々の生活の中で認識するには、リサイクルの実態だとか、ごみ資源の流れだとか、ごみの資源化への流れだとかいったところの場を通じてPRをしていくことが必要だと思いました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	はい。ありがとうございます。
大矢委員	<p>それでは、大矢委員、お願いいたします。</p> <p>ちょっとまた、確認からなんですけど、今、清掃工場のごみが稼働率も落ちてきている中で、さっきの弁ガラなんですけど、サーマルリサイクルの中では、今、一緒に燃やしちゃっていいんですよね。</p>
保科委員	はい。

大矢委員	<p>だから、その、サーマルリサイクルに入ったことで、昔は燃やしちゃいけないものが燃やしていいんですよとなったので、ここが、どっちを目指しているのか、ちょっと、多分、人によって、これは燃えるごみなんだよ、いや、これは燃えないごみなんだよというのがちょっと混乱しているところがまだあって。なので、サーマルリサイクルそのものが清掃工場としてのエネルギーを出すという観点からしたら、特にまずいことじゃないんですよ。</p>
保科委員	<p>いろいろ評価はあると思うんですが、サーマルリサイクルとはうまい言葉で、要するにプラスチックを燃やして熱を回収しましょうということです。そうすると、今の料金体系というのは、持ち込んだ、清掃工場に燃やしたごみの量が指標になっているんです。それは、回収してリサイクルに回せば、プラスチックで再利用できるわけです。だから、片やごみが減ってきて清掃工場の稼働率を確保しなきゃいけないという要請と、あと、今お話があった最終処分場の問題、燃やせば当然焼却灰が出ますので、リサイクルに回せば、例えばこういうものとか、いろんなものに再利用できる。そこは一種の二律背反で、純然に、施策的に考えればリサイクルに回ったほうがいいわけです、熱回収よりも。そうすると、最終処分場も延命ができることになります。</p>
大矢委員	<p>わかりました。ちょっとそここのところが、ちょっと微妙なところかなと思ったので。</p> <p>主な取組みに関しては、ごみの減量に関して大規模事業者対策、中小事業者対策、個人対策ときめ細かな対策が実施されているので評価できるし、また、大企業は主に紙とかに関しては、当然リサイクルは当然ペーパー類は高くなるし、あと最近の大型のビルなんかは、今の食料の残飯を含めてバイオマスなんかの発電なんかも入れているところも結構出てきているから、そういう意味では、今後の新しくできる大型のビルというのは、そういう環境配慮を含めたリサイクル型の建物になっていくのかなというふうに思います。指標に関しては非常にわかりやすい指標ですし、今後、排出量を減らし、資源化率を高めていくというために、2Rですけど、3Rをより一層推進していく必要があると思います。</p> <p>今後の方針、3にしてありますけれども、普及ということで、これは現在の取組み内容の延長にあって、何か新たな施策が特にこの中になかったもので、今後淡々とそこはやっていってほしいなということで、区民や区内の事業者にはPR、啓発も、今後、より重要になってくるだろうなと思います。最終的に資源が乏しい我が区において、リユース、リデュース、リサイクルですか、の推進は欠かせないということで、特に清掃工場を持たない千代田区ということですので、これはさっきの話じゃないですけど、千代田区は率先してそれを実行していく必要があるということで、そのことが資源循環型都市の実現につながっていくということで、現在行っている施策を区民や企業の協力のもと今後も推進していく</p>

湯浅委員	<p>必要があるかなと思います。総合評価はBでいいかなと思います。以上です。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>こちらにつきましても、皆様、高い評価ということになりました。何かご質問や、もしほかの委員の方の報告を聞いてのご意見などがございましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。こちらもよろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">（「はい」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>よろしければ、分科会のまとめに入らせていただきます。</p> <p>それでは、分科会長、よろしくお願いいたします。</p>
朝日分科会長	<p>はい。1点修正がありまして、主な取組みが合計20点、指標が17、今後の方針も17、合計点54で、B評価ですね。全てB評価になりました。</p> <p>議論のあったところとしては、主な取組みについては、おおむね働きかけるべきターゲットに対して基本的な適切な働きかけはされているという評価でした。</p> <p>指標に関しては2点ございました。目標達成に対して進捗はしているけれども目標がかなり厳しいという認識での評価となりました。もう一つは、ターゲットが明らかになっている部分については、エコ町内会の加入率など、新たな指標を追加していくべきではないかという観点での評価です。</p> <p>今後の方針につきましては、有料化の観点が出ました。やはり全体の減量の重要性という意味で、主体にインセンティブを持たせるという意味での有料化を今後検討する必要があるのではないかという考え方と、事業者の比重の大きさから事業者向けの働きかけとしてオフィス町内会での取組みを注視していくべきであろうというご指摘が出ました。</p> <p>それから、あと基本的ではありますが、廃棄物は昼間区民と住民に対しても見えにくい部分ですので、やはりPR・啓発を重要視していくべきであろうという点が出ました。</p> <p>あとはサーマルリサイクルですね。R間でのトレードオフの話題も出まして、多分エネルギーの観点もあって、この手の議論がどんどん増えてくるのかと思うのですが、そういった観点が指摘されました。</p> <p>以上になります。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして環境まちづくり・政策経営分科会は全ての施策の評価が終了となります。</p>

3 その他

湯浅委員 朝日分科会長	朝日委員は、まだ、ちょっとほかの分科会があるんですけども…… そうですね。
----------------	--

湯浅委員	<p>もし鈴木委員、松井委員のほうで、今回の分科会についてのご感想、ご意見などいただければお願いしたいと思いますが、よろしいですか。</p>
鈴木委員	<p>あ、僕ですか。勉強になりましたというぐらいで。やはり千代田区さんは他の市区町村の、いろいろな面でモデルになっているというところがありますので、そういう政策を幅広く拝見する、いい機会となったと思っております。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。 ありがとうございます。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。</p>
松井委員	<p>松井委員、いかがでしょうか。 はい。全体的に、取り組ませていただいている施策、事業というのは、総じて他の区市町村に比べても高い達成度にあるのかなど。取り組みについても、地域性もあるのかなど思いながら、取り組ませていただきました。 ただ、他方で、予算との関係というのを、私がいただいた資料から見る限りですと執行残といいますか、執行率の低さが目につきました。 ただ、これは捉え方次第であって、千代田区さんが毎年度効率化を、他区市町村に見られないぐらいに毎年度毎年度取り組まれていて、予算規模よりも効率化がどんどん進んでいる可能性が考えられる。 もう一つは、前年度に考えた対象者が、突然、忽然と消えてしまった可能性もある。要するに当時想定した住民たちが1,000人ぐらいたんだけど全員が移住してしまっていて、実は対象者がいなくなった。しかし、それは、考えにくいことです。 もう一つ考えられるのは、少し誇張して言いますと、予算の査定段階でやや多めにつけ過ぎているのではないかと考えられる。実は一番懸念しているのは3つ目であって、やはり予算規模が大きい自治体ですと、これぐらいつけてもいいだろうというふうな少し余裕があるのかなというのを、今回、千代田区さんを見させていただいて感じたところがあります。 ただ、現場の方にとってみると、いやいや、もっと足りないのだというような感覚もあるのかもしれない。しかし、他区、他市町村まで広げてみれば、これだけ執行残があるというのは信じられない状態です。これは、財源はご負担を区民にむしろお願いしているということにもなりますから、考え方次第では予算の組み方自体といいますか、査定の段階でかなり厳格にやっていただいたほうがよろしいのかなというふうな感覚を持ちました。 ただし、それは幾つかの理由があると思います。先ほどみたいにまだ計上していない部分も、執行が継続されている部分もあることや、当初予定したものが大きく変化してしまったという理由があるのかもしれない。これらは、やはり千代田区の特長としての評価の対象として、予算</p>

湯浅委員 亀割委員	<p>の組み方みたいなものを考えてみるのも宜しいのではないのかなあという感覚を持ったというのが感想です。</p>
	<p>以上です。</p>
	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>予算って、行政計画で年間を通してこんなことに取り組むんだよというのを打ち出しますよと。そのときに、やっぱりある程度必要な経費の最少の経費で最大の効果を出すのが基本なんですけども、執行は見込めないにしても、目標値として最大値の大きな目標として立てる。ただ、財源という問題がありますので、例えば先ほどの環境の話ですと基金というものがありまして、これは、基金を全部充てるとすれば、歳出歳入ともに大きく見せられると。執行残になったら、区が保有している基金が残るだけですから、そういう形で、ちょっと姿勢として見せている部分が幾つかありましてですね……</p>
松井委員	<p>言葉は悪いのですが、見せ金で使えるほど、ほかの区は余裕がないと思います。ここは千代田区の話なので、千代田区独自のやり方があって良いとは思いますが。とはいえ、それは結局区民の方々からのご負担のうえに成り立つ話です。基金になるからよいのだという議論も確かに一理はありますが、基金を積むことが前提であれば、最初から負担を求めなければよいのではないか、という話になりかねません。</p>
保科委員 松井委員	<p>そうです。</p>
	<p>だから、それは将来を見据えた基金化の意味みたいなものも強く訴える必要があるのかもしれないけども、それは、考え次第かなと思いました。</p>
保科委員	<p>そうですね、執行率の問題は。今年も80%台では、一般会計の執行率は。</p>
亀割委員 保科委員 湯浅委員	<p>そうです、全体で。</p>
	<p>28決算では。</p>
	<p>はい。ありがとうございます。</p>
	<p>最後、分科会長として何かご意見がございましたら。</p>
朝日分科会長	<p>個人的な意見でいいですかね。</p>
湯浅委員	<p>はい。</p>
朝日分科会長	<p>私も非常に、引き続きですけれども勉強になりました。ベースとして、区としてやるべきレベルとしては非常にどれも高くて、これは何かこうひどいというような印象を持つものは本当になくて、その意味ですごくモデルにもなり得るし、すごくレベルが高い。</p>
	<p>感想としては、松井先生と一緒に、執行率が低い。それは私の受け止め方は見せ金という、意欲として課題の大きさに比例しているだけと見ていたけども、典型的に先ほどのお話にもあったように、お金をかけずにインセンティブに働きかけるという方策、成果の観点で見ると、そちらのほうがむしろいいと思います。あと、区民の特性としても事業系</p>

<p>湯浅委員 朝日分科会長 湯浅委員</p>	<p>であったり、区民、住民の方の意識にしても、そういったインセンティブの働きかけに、割と反応してくださるような気もするんですね。漠然とした印象ですけれども。ですので、成果の観点から見たときに、あまり費用対効果が悪いと見られてしまうよりも、もう少しの工夫でこんなに効果が出ているという見せ方についてもよいモデルになり得る潜在力がまだまだあるような印象を持ちました。</p> <p>以上です。大変勉強になりました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>朝日分科会長</p>	<p>本日の評価いただきました内容につきましては、議事録を作成後、公表用の主な資料として整理して取りまとめた評価結果表とともに送付させていただきますので、内容のご確認を今後お願いしたいと思います。</p> <p>先ほどの評価結果表ですが、資料の2で案としてお示しをさせていただいております。</p> <p>こちらの評価結果表ですが、分科会でご意見をいただきました施策ごとに、主な意見として取りまとめて作成をさせていただきます。</p> <p>今後、行政評価委員会の報告書として掲載をさせていただくとともに、報告書案ができるのが、9月、10月ぐらいになりますので、できる限り、このご意見を早々に活用していきたいということで、メモ程度になってしまいますが、所管部にお渡しできればと思います。</p> <p>また、行政評価に関する全体のご意見は、施策の目標の判定評価採点表、個別のその他の意見のシートにご記入をいただきまして、事務局までメールでご提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>その他の意見に関しては、締め切りみたいなものは、今後ということになりますと、あるんでしょうか。</p>
<p>朝日分科会長</p>	<p>一応、全体会までの間にいただければ結構ですが、できるだけ早くいただけますと、事務局としても取りまとめが助かります。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>わかりました。</p> <p>以上で全て終了となりますが、何かご不明な点ございますか。</p> <p style="text-align: center;">（「なし」の声あり）</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>では、皆様ご多用のところご協力いただきまして、ありがとうございました。これで終了となります。</p>